

科目名			区分	
心理学			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ (後期) ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 人の心は直接目で見ることはできないと言われる一方、他人の痛みや苦しみを自分のことのように感じることもある。心を知る方法について、様々な視点から考えてみたい。 <授業目標(GIO)> 心理学の基礎を学ぶ。 <行動目標(SBO)> 考える力を身につける。 <授業の留意点> 自分自身や家族や友人などの場合についても、具体的に考えられるようになること。 <教科書> ・プリント配布 <参考書>	授業計画		備考
	1	知覚(経験)と科学	
	2	知覚を説明する概念	
	3	錯覚または知覚の両義性	
	4	知覚の優位性と意味や価値	
	5	行動のとらえ方と学習	
	6	条件反射と古典的学習	
	7	オペラント学習	
	8	観察学習と洞察学習	
	9	心理テスト 実習	実習
	10	心理テスト 解釈	実習
	11	性格のとらえ方	
	12	性格と役割	
	13	無意識と発達	
	14	ストレスと健康	
	15	生活習慣を見直す	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験・レポート100%			

※1 精神保健福祉士として病院で実務経験32年以上

科目名			区分	
倫理学			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ (後期) ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> ・倫理学の本質を理解し、倫理的に思考する力を身につける ・種々の問題に対して自ら考えることの意義を理解する ・自らの考えを文章にして表現する能力を養う <授業目標 (GIO) > 倫理的問題に対処するために必要な論理的思考能力を養う。 <行動目標 (SBO) > ・倫理的問題の特徴を理解して行動できる ・論理的思考力を身につける ・種々の問題に対して、己の立場を明確にし、表現することができる <授業の留意点> ・身近な価値判断や倫理的問題に興味を持ち、自ら考えるようにしておくこと。 <教科書> 『現代倫理学入門』（講談社学術文庫） <参考書>	授業計画		備考
	1	嘘をつくこと(教科書第1節)	講義
	2	功利主義(2節)	講義
	3	薬の配分方法(3節)	講義
	4	エゴイズム (4節)	講義
	5	幸福の計算 (5節)	講義
	6	判断能力と価値判断 (6節)	講義
	7	価値判断と事実判断(7節)	講義
	8	正義の原理 (8節)	講義
	9	思いやりからの道徳 (9節)	講義
	10	囚人のジレンマ (10節)	講義
	11	愚行権 (11節)	講義
	12	貧しい人への義務 (12節)	講義
	13	未来の人への義務(13節)	講義
	14	正義の変化 (14節)	講義
	15	科学の限界 (15節)	講義
	16	・定期試験	
成績評価			
定期試験(小論文)80%、レポート20%			

科目名			区分	
生物学			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師

<授業概要> 生物学は、医学や工学、化学などの他分野と密接に係わりながら現在も進展している。この授業では、私達ヒトを含む生命の基本単位である細胞の構造や、細胞を構成する化学物質、細胞活動を支えるエネルギー、親から子へと細胞の特徴を伝える遺伝子の構造と遺伝子発現の基本的な仕組みなど、生命を理解するための基礎を講義し、生物学の基礎を学ぶ。
<授業目標(GIO)> 生命の基本単位としての細胞の種類や構造を理解し、細胞を構成する化学物質の基本構造や働きを基礎を理解する。これらを通して、遺伝のしくみや細胞の増殖、生殖と発生など、生物学の基礎を理解
<行動目標(SBO)> 以下の項目について、基礎的な内容を理解し、説明できる。 (1)真核細胞の構造と機能。 (2)細胞を構成する化学成分。 (3)栄養素とエネルギー生産 (4)細胞の増殖 (5)遺伝子と遺伝子発現の仕組み
<授業の留意点> 授業では、教科書を参照しながらスライドを用いて説明する。「分かったつもり」にならず、説明内容をノートに取る。また、適宜評価対象となる課題(レポートなど)を出すので、真面目に取り組んで提出して下さい。
<教科書> 系統看護学講座 基礎分野 生物学(医学書院)
<参考書> 高校の生物や化学の検定教科書。 Essential細胞生物学(中村桂子他訳、南江堂)

授業計画		備考
1	授業ガイダンス 生命体のつくりと働き	講義
2	真核細胞とその構造	講義
3	細胞の化学成分 (1)溶液と体液、タンパク質	講義
4	細胞の化学成分 (2)遺伝物質(DNAとRNA)	講義
5	細胞膜と、細胞膜を通した物質の輸送	講義
6	生体維持のエネルギー ATPとその合成	講義
7	細胞の増殖 細胞周期、体細胞分裂と減数分裂	講義
8	セントラルドグマ: 遺伝情報とその伝達・発 (1)染色体とDNA、DNA複製	講義
9	セントラルドグマ: 遺伝情報とその伝達・発 (2)RNA合成とタンパク質合成	講義
10	生殖と発生 (1)無性生殖と有性生殖、配偶子形成	講義
11	生殖と発生 (2)授精、卵割、胚葉形成	講義
12	ヒトを構成する12の器官系	講義
13	神経系と神経系の情報伝達	講義
14	異物特異的反応と排除のしくみ 免疫反応の基礎	講義
15	授業の総まとめ	講義
16	期末試験	

成績評価
期末試験80%、課題問題20%

科目名			区分	
基礎力学			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 将来の専門分野領域を理解するための基礎知識を学ぶ。また、運動学や解剖学と関連させて理解していく。		1 オリエンテーション	講義
		2 生体力学の基礎 力の合成と分解	講義
		3 生体力学の基礎 ベクトルの計算	講義
		4 生体力学の基礎 モーメント	講義
<授業目標(GIO)> 人が動くとは何か？どうやって動いているのか？を理解するための礎を築くことを目標とする。		5 生体力学の基礎 モーメント	講義
		6 生体力学の基礎 モーメント	講義
		7 生体力学の基礎 身体とてこ	講義
		8 生体力学の基礎 身体とてこ	講義
<行動目標(SBO)> ・数学の概念を応用できる。 ・運動学を力学からの視点で学ぶ力をつける。 ・解剖学、運動学とを関連して学ぶ力をつける。		9 生体力学の基礎 身体とてこ	講義
		10 生体力学の基礎 重心	講義
		11 生体力学の基礎 重心の求め方	講義
		12 生体力学の基礎 滑車	講義
<授業の留意点> 今後、の専門基礎や専門科目の授業を理解するためには必須となる。また、運動学との関連を含めて授業を進める。		13 練習問題	講義
		14 練習問題	講義
		15 練習問題	講義
		16 定期試験	
<教科書> ・資料プリントを配布する。		成績評価	
		筆記試験:100%	
<参考書> ・基礎運動学(医歯薬出版) ・プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)			

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
情報処理 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	非常勤講師

授業計画		備考
1	Windows10の基礎と基本操作方法 フォルダ、ディレクトリ構造	講義 演習
2	Word2016の基本、Wordの画面構成、画面操作 入力	講義 演習
3	Word文章作成、日本語入力システム、文字の入 力と変換、保存、編集とコピー、移動など ページ設定、文字の書式設定	講義 演習
4	Wordの活用 編集、表の編集、ビジュアルな文章の作成	講義 演習
5	Wordの活用 ページ罫線、クリップアート	講義 演習
6	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題1と2と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
7	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題3と4と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
8	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題5と6と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
9	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題7と8と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
10	Word文書処理技能認定試験対策 実践練習問題9と10と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
11	Word文書処理技能認定試験対策 模擬問題1と2と3と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
12	Word文書処理技能認定試験対策 模擬問題4と5と6と解説 ビジネス文章作成	講義 演習
13	試験対策	講義 演習
14	個人情報漏洩問題、情報セキュリティマネジメント	講義 演習
15	個人情報漏洩事件の実例と対策 損害賠償や訴訟	講義 演習
16	定期試験	演習

<授業概要>

企業のパソコン利用率は99%超え、業種・職種を問わずパソコンスキルは今やあらゆる企業で必要なスキルとなり、就職活動やレポート提出等には欠かせないツールとなっている。当授業ではWindowsの基礎、フォルダ・ファイル構造を習得し、最新版のWord2016を使用した実践形式による文章作成方法を習得を学ぶ。

<授業目標(GIO)>

- Word2016の効率的な操作方法を習得する。
- パソコンの基礎、フォルダ・ファイル管理方法を習得する。
- Word3級程度の技能を習得するので、希望者は資格を取得することができる。

<行動目標(SBO)>

- 高度情報化社会におけるパソコンのあり方を理解しパソコンを身近な道具として使える技能を習得する。
- コンピュータやインターネットの仕組みを理解すると共に将来必要となるパソコンスキルの必要性を理解する。
- 文書作成の基礎から応用を学び書式を整えた、適切な文章作成や編集が行える。
- Word文章処理技能認定試験3級(ビジネス能力検定)取得のための技能を習得する。

<授業の留意点>

操作指示と異なる内容(関係の無いサイトの閲覧など)に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。
理解が早い生徒に関しては上位資格の試験対策を行います。

<教科書>

30時間でマスター Office2016
Word文書処理技能認定試験3級問題集
【2016対応】

<参考書>

オリジナルテキスト

成績評価

実技試験100%

科目名			区分	
情報処理Ⅱ			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画		備考
<授業概要> 表計算ソフトExcel2016を使用した実践形式による表計算作成の基礎から応用までの習得を行う。また、近年各企業が重要視している個人情報保護についても適切な取扱いや情報漏洩の仕組みを理解し、加害者にならないよう基本知識の習得と個人情報を取り扱っているという意識向上を目指す。		1	Excel2016 データ入力の基礎、ファイル保存、読込	講義 演習
		2	Excel2016 ワークシート編集、書式設定	講義 演習
		3	オートSUMボタンの利用	講義 演習
		4	関数の挿入	講義 演習
<授業目標(GIO)> Officeアプリケーションの特徴を理解し、目的の資料がスムーズに作成できる知識を習得する。また、将来取扱う患者のカルテなどの個人情報の重要性を理解し適切に取扱うことができる人材や情報リテラシー能力向上を目指す。		5	グラフ、データベース機能	講義 演習
		6	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題1と2、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		7	Excel表計算処理技能認定試験対策練習問題3 と4 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		8	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題5と6、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
<行動目標(SBO)> ●高度情報化社会におけるパソコンのあり方を理解しパソコンを身近な道具として使えるように、コンピュータリテラシーを身につける。 ●個人情報漏洩の原因やリスクを理解し漏洩を防ぐポイントを理解する。 ●関数や統計処理、データベース管理など応用的な内容を身につける。 ●Excel3級程度の技能を習得するので、希望者は資格を取得することができる。		9	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題7と8、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		10	Excel表計算処理技能認定試験対策 練習問題9と10、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		11	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題1と2、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		12	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題3、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
<授業の留意点> 操作指示と異なる内容(関係の無いサイトの閲覧など)に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。 理解が早い生徒に関しては上位の試験対策を行います。		13	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題4、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		14	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題5、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		15	Excel表計算処理技能認定試験対策 模擬問題6、解説 ビジネス表計算シート作成	講義 演習
		16	定期試験	演習
<教科書> 30時間でマスター Office2016 Excel表計算処理技能認定試験3級問題集【2016対応】		成績評価		
		実技試験:100%		
<参考書> オリジナルテキスト				

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

科目名			区分	
統計学			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	(前期) ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ (演習) ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> ・保健体育関係のデータを用い、資料の図的表示の方法、代表値、標準偏差による数値での表現方法及びその計算による求め方を学ぶ。 ・正規分布の基本的特性を割合計算を通して学ぶ。 ・標本調査の作業を通し、統計的仮説検定の基本的な考えを学ぶ。 <授業目標(GIO)> ・保健領域における各資料の適切な取り扱いができるようにするため、統計の基本的考えについて身に付ける。 <行動目標(SBO)> ・資料を図表に表すことができる。 ・資料の代表値、標準偏差を求めることができる。 ・正規分布から目的のデータを読み取ることが出来る。 ・標本調査ができる。 ・平均値の統計的仮説検ができる。 <授業の留意点> ・講義を聞くという受け身の姿勢ではなく、図表作成、電卓操作、資料統計のデータ作り等の作業に取り組むことで統計の基礎を身に付けさせる。 <教科書等> ・自作資料 ・電卓、コンパス、分度器、物差し <参考書> ・看護学生のための統計学 ・PT・OTのための統計学入門(三輪書店) ・統計解析のはなし(日科技連出版社) ・基本統計学 (東洋経済新報社)	授業計画		備考
	1	・オリエンテーション 年間授業計画と単位認定の方法 ・基礎知識の実態調査実施及び解説	講義・演習
	2	・代表値の1つ平均値が持つ利点と限界を考える — 平均値と度数分布 —	講義・演習
	3	・相対度数の求め方と度数折れ線の表わし方	講義・演習
	4	・データの散らばりの程度を表す数 “標準偏差” と他の代表値 “中央値及び最頻値”	講義・演習
	5	・データを円・帯グラフによって表す方法 *第一回レポート提出	講義・演習
	6	・データの比較のための帯グラフ活用法 ・統計を学ぶ必要性について考える	講義・演習
	7	・2つのデータの関連性をみる散布図の表し方 ・グラフ活用の利点と留意点を考える	講義・演習
	8	・新聞、ニュースに出てくる統計数値の読み解き方 *第二回レポート提出	講義・演習
	9	・正規分布とはどういうものか、その特性を知る	講義・演習
	10	・正規分布を標準化し集団の割合を求める	講義・演習
	11	・標本調査とは何か 模擬実験	演習
	12	・標本平均値の性質	講義・演習
	13	・平均値の統計的仮説検定のやり方 その1	講義・演習
	14	・統計的仮説検定 その2 *第三回レポート提出	講義・演習
	15	・新聞、ニュースに出てくる統計数値の読み解き方 その2	講義・演習
16	定期試験		

成績評価	
筆記試験80%、課題レポート20%	

科目名			区分	
統計学演習			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ (後期) ・ 通年	30 (1)	講義 ・ (演習) ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 医学系とくにリハビリ領域における研究にて用いられる統計学的手法について学ぶ。例題をもとに電卓や統計ソフトを使用した簡単な統計学的手法を実践する。また統計手法を用いた論文を読んで結果の解釈方法を考える。 <授業目標(GIO)> 理学療法の実践に必要な統計学の知識を身につける <行動目標(SBO)> 統計学的手法の目的と意義を述べるができる データの正確な入力と整理ができる 統計学の基礎となる知識を理解できる 統計学的手法の結果を解釈することができる <授業の留意点> ・講義ではデータ処理にて数を扱うが、数字に対して苦手意識を持たず取り組むこと。 ・「なぜ、このような統計学的手法が必要なのか」という意識を持ちながら授業に臨むこと。 <教科書> 対馬栄輝他『リハビリテーション統計学』中山書店 <参考書> 渡邊宗孝他『PT・OTのための統計学入門』、三輪書店 杉山高一他『保健・医療を学ぶ人のための統計学』、文芸春秋 対馬栄輝『SPSSで学ぶ医療系データ解析』、東京図書	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 統計学を学ぶ意義	
	2	統計学の概念と歴史	
	3	データ入力と整理 中央値・平均値・最大値・最小値などの計算	
	4	データ整理とヒストグラム作成	
	5	名義尺度の変数に対する統計学的検定(1)	
	6	名義尺度の変数に対する統計学的検定(2)	
	7	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定(1)	
	8	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定(2)	
	9	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定(3)	
	10	順序尺度の変数に対する統計学的検定(1)	
	11	順序尺度の変数に対する統計学的検定(2)	
	12	順序尺度の変数に対する統計学的検定(3)	
	13	相関・回帰直線(1)	
	14	相関・回帰直線(2)	
	15	相関・回帰直線(3)	
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験100%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

科目名			区分	
スポーツ・健康 I			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	(前期) ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	(講義) (演習) ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 講義や実技を通して、健康の維持・増進に関する基礎的知識を学習し、各種スポーツの特性や技術およびトレーニングの方法についても理解を深め、運動・スポーツの有効性について考える <授業目標 (GIO)> 健康の維持・増進について学び、運動・スポーツの必要性を理解し、実践を通して安全に楽しく運動ができる <行動目標 (SBO)> ・自分の健康の維持管理ができる ・運動を安全に楽しく実践できる ・各種スポーツの特性およびルール説明ができる <授業の留意点> ・運動ができる服装を準備すること ・実技をおこなうため体調の自己管理をすること ・筆記用具は毎回準備すること <教科書> ・教科書なし(資料を配布) <参考書> ・健康・運動・スポーツのTopics(八千代出版)	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	
	2	健康と運動	
	3	トレーニング	
	4	心理的スキル	
	5	体操	
	6	障がい者スポーツ	
	7	スポーツ I	
	8	スポーツ II	
	9	スポーツ III	
	10	スポーツ IV	
	11	スポーツ V	
	12	グループ発表 I	
	13	グループ発表 II	
	14	グループ発表 III	
	15	グループ発表 IV	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験50%、実技50%			

科目名			区分	
スポーツ・健康Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

＜授業概要＞		授業計画		備考
病気やけが、災害から自身を守り、急病人やけが人を正しく救助して、応急手当や救命手当の方法を学ぶ。 障がい者スポーツ・文化協会での研修や障がい者スポーツサポートを通してスポーツの意義や対象者との関わりを学ぶ	＜授業目標(GIO)＞ 「スポーツ」・「健康」の意義を救急法講習会や障がい者スポーツ・文化活動を通して理解する。	1	ふれあいジョギングサポート オリエンテーション	9/25(水)
		2	ふれあいジョギングサポート	9/28(土)
		3	ふれあいジョギングサポート	
		4	ふれあいジョギングサポート	
		5	ふれあいジョギングサポート	
6	BLSオリエンテーション			
＜行動目標(SBO)＞ ・傷病者の観察ができ、一次救命処置など救急法を実施できる ・障がい者スポーツの意義・理念を理解する ・障がいを理解し対象者に応じたサポートを行える		7	BLS	10/31(木)
		8	BLS	
		9	BLS	
		10	BLS	
＜授業の留意点＞ ・各回の研修に際して事前の準備を怠らないこと ・対象者や外部の方に失礼のないよう学生としての自覚を忘れず真剣に臨むこと	＜教科書＞ ・教科書なし(資料を配布)	11	熊本県障害者スポーツ・文化協会研修 オリエンテーション	11/25(月)
		12	熊本県障害者スポーツ・文化協会研修	
		13	熊本県障害者スポーツ・文化協会研修	
		14	学内で振り返り・レポート作成	
		15	学内で振り返り・レポート作成	
＜参考書＞ ・BLS講習会テキスト		成績評価 提出課題:100%		

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

科目名			区分	
対人関係論			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期・通年	30 (1)	講義 演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 自分の感情・思考・行動パターンを知り、自己の心を知る。自己を知ることによって他者との関係性を作っていくために自己表現・傾聴・承認・質問などを修得しコミュニケーションを学び、実践していくことで修得していく。 <授業目標(GIO)> コミュニケーションを学び、実践することで他者との関係性を構築し、自己確立を目標とする。 <行動目標(SBO)> 基本的な考え方、スキルを学び、グループワークやロールプレイを行い実践できる事を目標とする。 <授業の留意点> テーマによって連続性のある時間があるので、学びが途切れてしまわないよう聞いてください。 <教科書> プリント配布 理学療法コミュニケーション論 <参考書>	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 自分の心を知る①	
	2	コミュニケーションパターン分析	
	3	自分の心を知る②	
	4	自分の心を知る③	
	5	自己表現	
	6	「怒り」の扱い方	
	7	グループワーク	
	8	オリエンテーション コメディカルにコミュニケーションが必要な意味	
	9	社会人基礎力について	
	10	コミュニケーションの必要性和スキル①	
	11	コミュニケーションの必要性和スキル①	
	12	コミュニケーションの必要性和スキル①	
	13	コミュニケーションにおける解決と解消①	
	14	学校でのコミュニケーション①	
	15	メンタルヘルスとコミュニケーション	
	16	定期試験	
	成績評価		
	筆記試験:90%、課題提出状況:10%		

※1 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上、介護老人保健施設で実務経験3年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

科目名			区分	
総合教育 I			(基礎) ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	(前期) ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 専任教員(※3)

<授業概要> 専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学習スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> 専門学校における学習の意義と心構えについて学び、学習習慣の確立と基本的なスタディースキルの習得を図る。	1	専門学校における学習の意義と心構え ・学習習慣について	
	2	自己学習の進め方・集中の仕方 ・記憶力トレーニング	
	3	自己学習の進め方・集中の仕方 ・記憶力トレーニング	
	4	自己学習の進め方・集中の仕方 ・記憶力トレーニング	
<行動目標(SBO)> ①専門学校における学習の意義について説明できる ②授業を受ける上での心構えについて説明できる ③効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる ④効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、その他の学習補助ツール(電子辞書含む)の活用について実践できる ⑤効果的な自宅学習の進め方・ノートの取り方について実践できる	5	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	6	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	7	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	8	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	9	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
	10	文献の読み方・専門書の活用の仕方 ・読解力トレーニング	
<授業の留意点> 演習系の授業では、授業に関連しない内容の発言は厳に慎むこと。 この授業で習得した学習スキルを日々の自己学習で実践すること。	11	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
	12	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
<教科書> 教員が資料を準備	13	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
	14	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
<参考書> 教員が資料を準備	15	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方	
成績評価			
※1 課題レポート100% ※2 提出物:100% ※3 課題提出状況100%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設等で実務経験19年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※3 作業療法士として保健所で実務(精神保健業務)経験7年以上、介護老人保健施設で実務経験3年以上

科目名			区分	
総合教育Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 本科目は、受講生であるあなたが、自分の意見や調べた情報を的確な文章に表現できるようになることを目指します。そのために、語彙や文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学びます。そして、具体的な手紙文や意見文の例を読解することを通して、わかりやすい日本語の文章を書く練習をします。 <授業目標(GIO)> 日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できること。 <行動目標(SBO)> 著者の意図を的確に読み取ることができ、読み手が理解しやすい文章が書けること。 <授業の留意点> 国語辞典(電子書籍で可)を必ず持参してください。自分の考えを他人に正しく伝えるにはどうしたらよいか、常に考えてください。 <教科書> 『基礎から学べる！文章カステップ(文章検3級対応)』 公益財団法人・日本漢字能力検定協会 <参考書> 『文章検公式テキスト3級』 公益財団法人・日本漢字能力検定協会	授業計画		備考
	1	答えは一つじゃない～知の素っぴん力を磨こう	
	2	新聞の”不思議”発見	
	3	世の中に関心を～コメントを言う、書く	
	4	名文より明文～「伝える」から「伝わる」へ	
	5	先結後各～大事なことを先に話す、書く方法	
	6	要約のワザ～言いたいことは何か！！	
	7	セレンディピティー(偶然を発見する力)を磨こう	
	8	新聞ヨム、社会ワカル、自分カワル	
	9	語句の意味や文法を正しく知る	
	10	資料の分析方法を知る	
	11	文章の読解方法を知る	
	12	文章の読解方法を知る	
	13	手紙文に必要な知識	
	14	手紙文から意見文へ	
	15	意見文を読み、書く	
成績評価			
課題レポート及び提出物100%			

科目名			区分	
国際コミュニケーション			基礎・専門基礎・専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師

<授業概要> ・グループ分けして、ボキャブラリーマスター ・ウォーミングアップとしてボディランゲージ&アイコンタクトによる会話 ・会話カードを作り、評価チェックする ・1分間会話を録画し、チェックする	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> ・英語によるコミュニケーションを楽しく学ぶ ・会話パートナーとの信頼・相互関係、助け合いを形成する ・英会話に対し、前向きで意欲的姿勢をつくる	1	リスニングテストでグループ分けと、そのグループリーダーを決める	
	2	Chapter1 相手の事をどのように尋ねるか 会話カード#1の作成	
	3	Chapter2 5ステップ会話の仕方 会話カード#2の作成	
	4	Chapter3 パートタイムジョブ、頻出単語を使つての1分間会話 会話カード#3の作成	
	5	Chapter4 人、場所の説明、講師が述べる絵を、聞いて描く 会話カード#4の作成	
	6	Chapter5 家族と友人の説明、人物表現 会話カード#5の作成	
<行動目標(SBO)> ・新しい単語のマスター及びトピックスのレッスン ・リスニング練習－ネイティブの英語発音、リズムを聞き取りマスターする ・パートナーと以下の会話を創り出す ①あいさつ ②ちょっとした会話 ③トピックス紹介 ④質問 ⑤会話の終了	7	会話カードの練習－チェック後パートナーと学んだ表現法、ジェスチャーを交え練習、会話録画	
	8	会話カード・ビデオ評価－文法、スピード暗記、アドバイスを与え採点	
	9	Chapter6 映画鑑賞－内容質問、内容説明カード#6作成、会話録画	
	10	会話カード#6 ビデオ評価 Chapter7 ホリデイ新しい単語、表現法 カード#7作成、録画	
	11	会話カード#7 ビデオ評価 Chapter8 宝くじに関する英語、例文作成 カード#8作成、録画	
	12	会話カード#8 ビデオ評価 Chapter9 ニュース、意見・考えを伝える カード#9作成、録画	
<授業の留意点> テキストのフレーズ、単語を使い、他のグループの会話も参考にして、独自の楽しい会話を創る ※誤りを指摘し、訂正させ、評価・チェックをする	13	会話カード#9 ビデオ評価 Chapter10 ベストの学習方法は何か、習った表現で説明 カード#10作成	
	14	会話カード#10 録画、各自及びクラス全体の評価 将来、英語の必要性指導	
<教科書> Tools for Increasing Proficiency in Speaking (TIPS)	15	Chapter5～10の作成・提出	
<参考書>	成績評価		
	レポート提出100%		

科目名			区分	
解剖学Ⅰ(骨格系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。特に解剖学Ⅰでは骨学と関節学について学ぶ。骨は、受動的運動器と称されるように、ヒトの運動に欠かすことのできない器官である。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習する。	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> 人体の成り立ち、構造を理解し、理学療法を行う上では道しるべとなる。各自の身体を用い、2次元での理解ではなく、3次元での理解を目標とする。 <行動目標(SBO)> ・解剖学の重要性がわかる。 ・人体の構成要素を理解する。 ・運動器について理解する。 ・解剖学用語を理解し覚える。 ・骨及び各部位の名称を理解し覚える。 <授業の留意点> 予習・復習を欠かさず取り組んでほしい。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 日本人体解剖学(上) プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系 <参考書> 基礎運動学 第6版 補訂	1	序論 解剖学とは、人体の基本構造	講義
	2	序論 人体の区分、位置や方向を示す解剖学用語	講義
	3	骨学総論 骨の形態と構造	講義
	4	関節学総論 関節の構造・種類	講義
	5	骨学各論 骨盤、下肢の骨(1)	講義
	6	骨学各論 下肢の骨(2)	講義
	7	関節学各論 下肢の連結	講義
	8	骨学各論 頭蓋	講義
	9	骨学各論 脊柱	講義
	10	骨学各論 胸郭	講義
	11	関節学各論 頭蓋の連結、脊柱の連結	講義
	12	骨学各論 上肢の骨(1)	講義
	13	骨学各論 上肢の骨(2)	講義
	14	関節学各論 上肢の連結	講義
	15	関節学各論 上肢の連結	講義
	16	定期試験	
成績評価			
・筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
解剖学Ⅱ(筋・運動器系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅱでは筋学を学ぶ。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習していく。 <授業目標(GIO)> 人体の成り立ち、構造を理解し、理学療法を行う上では道しるべとなる。各自の身体を用い、2次元での理解ではなく、3次元での理解を目標とする。 <行動目標(SBO)> ・解剖学の重要性がわかる。 ・人体の構成要素を理解する。 ・運動器について理解する。 ・解剖学用語を理解する。 ・筋の起始・停止・作用・支配神経を覚える。 <授業の留意点> 教科書を中心に講義する。予習・復習を欠かさず取り組んでほしい。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) <参考書> ・プロメテウス解剖学アトラス	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 筋学総論 筋組織、筋の補助装置	講義
	2	筋学総論 骨格筋の起始・停止・作用	講義
	3	筋学総論 骨格筋の神経支配	講義
	4	神経学総論 脊髄神経と神経叢	講義
	5	筋学各論 上肢の筋(1)	講義
	6	筋学各論 上肢の筋(2)	講義
	7	筋学各論 上肢の筋(3)	講義
	8	重要事項のまとめ	講義
	9	筋学各論 下肢の筋(1)	講義
	10	筋学各論 下肢の筋(2)	講義
	11	筋学各論 下肢の筋(3)	講義
	12	筋学各論 頭部・頸部の筋	講義
	13	筋学各論 胸部・腹部の筋	講義
	14	重要事項のまとめ	講義
	15	重要事項のまとめ	講義
	16	前期試験	
成績評価			
定期試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
解剖学Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 人体を構成している神経系の成り立ちを理解する。療法士に必要な神経系について系統的に学習していく。神経疾患はリハビリで扱う代表的な部分である。疾患理解のために、各部位の位置関係、働きも学習していく。 <授業目標(GIO)> 神経系の構造、位置関係を認識する。 神経系の働きを理解する。 疾患や検査、治療のために神経系の学習が必要であることを知る。 <行動目標(SBO)> 神経系に関わる用語を覚える。 神経系の位置関係をイメージする。 神経系と疾患や検査、治療を関連付ける。 講義内容は教科書にて確認すること。 <授業の留意点> 欠席せず、私語を慎んで受講すること。 必ず予習・復習すること。 <教科書> 日本人体解剖 上巻 改訂19版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第2版 プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版 <参考書>	授業計画		備考
	1	神経系総論	講義
	2	脊髄	講義
	3	脳幹(中脳・橋・延髄)	講義
	4	小脳	講義
	5	間脳	講義
	6	終脳	講義
	7	終脳	講義
	8	下行性伝導路	講義
	9	上行性伝導路	講義
	10	1～9コマまでのまとめ、小テスト	講義
	11	脊髄神経	講義
	12	脊髄神経	講義
	13	脳神経	講義
	14	自律神経	講義
	15	まとめ	講義
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験:80% 小テスト:20%			

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
解剖学Ⅳ(内臓・感覚器系)			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	非常勤講師

<授業概要> 人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅳでは医療および疾患の理解に必要な内臓や感覚器について学習する。 <授業目標(GIO)> 解剖学の知識を各種検査や治療手技へ応用できる。 <行動目標(SBO)> ・各種臓器及び部位の名称と働きを理解する。 ・他臓器との関連とくに立体配置を理解する。 <授業の留意点> 教科書を中心に講義する。予習・復習を欠かさず取り組んでほしい。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 日本人体解剖学 改訂19版 上巻 骨格系・筋系・神経系(南山堂) <参考書> プロメテウス解剖学アトラス	授業計画		備考
	1	感覚器系 外皮、視覚器	講義
	2	感覚器系 平衡聴覚器、嗅覚・味覚器	講義
	3	循環器系 全体像	講義
	4	循環器系 心臓	講義
	5	循環器系 動脈系	講義
	6	循環器系 静脈系	講義
	7	循環器系 胎児循環、リンパ系	講義
	8	内臓系 全体像	講義
	9	内臓系 消化器系(消化管)	講義
	10	内臓系 消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)	講義
	11	内臓系 呼吸器系	講義
	12	内臓系 泌尿器系	講義
	13	内臓系 生殖器系、内分泌系	講義
	14	人体の発生、まとめ	講義
	15	まとめ	講義
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

科目名			区分	
生理学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。 <授業目標(GIO)> 本授業では、理学療法学と作業療法学の基礎となる生理学を系統的に理解するを目的としている。 <行動目標(SBO)> 1. 生理学における重要項目を覚えている。 2. 器官・組織の機能を説明できる。 3. 器官・機能の仕組みを説明できる。 4. 生理機能と理学・作業療法との関連を説明できる。 <授業の留意点> 講義内容を理解し、覚えているかを確認する小テストが行われるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。 <教科書> 生理学(標準理学療法学、作業療法学、専門基礎分野シリーズ)医学書院 <参考書> 消って忘れない 生理学要点整理ノート(PT・OT必修シリーズ) 羊土社	授業計画		備考
	1	細胞と内部環境	講義
	2		
	3	血液(1)	講義
	4		
	5	血液(2)	講義
	6		
	7	循環(1)	講義
	8		
	9	循環(2)	講義
	10		
	11	循環(3)	講義
	12		
	13	呼吸(1)	講義
	14		
	15	呼吸(2)	講義
	16		
	17	消化と吸収(1)	講義
	18		
	19	消化と吸収(2)	講義
	20		
	21	腎臓と排出(1)	講義
	22		
	23	腎臓と排出(2)、酸-塩基平衡	講義
	24		
	25	前期復習(1)	講義
	26		
	27	前期復習(2)	講義
	28		
	29	まとめ復習	講義
	30		
	31	定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

※1 医師として病院で実務経験9年以上

科目名			区分	
生理学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 非常勤講師(※2)

<授業概要> 生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。 <授業目標(GIO)> 本授業では、理学療法学と作業療法学の基礎となる生理学を系統的に理解するを目的としている。 <行動目標(SBO)> 1. 生理学における重要項目を覚えている。 2. 器官・組織の機能を説明できる。 3. 器官・機能の仕組みを説明できる。 4. 生理機能と理学・作業療法との関連を説明できる。 <授業の留意点> 講義内容を理解し、覚えているかを確認する小テストが行われるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。 <教科書> 生理学(標準理学療法学、作業療法学、専門基礎分野シリーズ)医学書院 <参考書> 消して忘れない 生理学要点整理ノート(PT・OT必修シリーズ) 羊土社	授業計画		備考
	1	内分泌(1)	講義
	2		
	3	内分泌(2)	講義
	4		
	5	性と生殖	講義
	6		
	7	神経系(1)	講義
	8		
	9	末梢神経(1)	講義
	10		
	11	末梢神経(2)	講義
	12		
	13	筋の収縮(1)	講義
	14		
	15	筋の収縮(2)	講義
	16		
	17	中枢神経(1)	講義
	18		
	19	中枢神経(2)	講義
	20		
	21	感覚(1)	講義
	22		
	23	感覚(2)	講義
	24		
	25	代謝と体温(1)	講義
	26		
	27	運動生理	講義
	28		
	29	まとめ復習	講義
	30		
	31	定期試験	

成績評価	
筆記試験:100%	

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 医師として病院で実務経験9年以上

科目名			区分	
生理学演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師

授業計画		備考
1	オリエンテーション	
2	A. 血圧測定Ⅰ:血圧計の原理と取り扱い方	
3		
4		
5	B. 血圧測定Ⅱ:運動負荷前後の血圧の変化	
6		
7	C. 筋電図測定Ⅰ:ポリグラフシステムの使い方	
8	筋力と筋電活動振幅との関係、筋疲労	
9		
10	D. 筋電図測定Ⅱ:肘関節屈曲と前腕回外、	
11	肢位と共同筋の組み合わせ	
12	E-1. オシロスコープシステムの使い方	
13		
14	運動神経伝道速度の測定(各班1人)	
15		
16	中間講評、今回から始まるローテーション方式	
17		
18	(E-2～J)のテーマを各班別順次行う)の説明	
19		
20	F. 触圧点と痛点	
21		
22	G. 温点と冷点	
23		
24	H. スパイロメトリー	
25		
26	I. 心電図の測定と解析	
27		
28	J. 自転車エルゴメータを用いた体力測定	
29		
30	K. 2点識別閾とその他の感覚検査	
31		
32	L. カエルの解剖・講評	
33	定期試験	

成績評価	
筆記試験40%、レポート60%	

<授業概要> 1年次で学んだ生理学を基礎とする。主要なテーマ(体性感覚・呼吸機能・心電図・筋電図・運動神経伝導速度)について、検査・測定を行い、結果を分析・解釈し、レポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。3年次から始まる卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。
<授業目標(GIO)> 生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。「人」の「心」を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。
<行動目標(SBO)> 各テーマについて、検査・測定の原理を説明できる。道具を的確に使い、または機器を正しく操作し、検査・測定をスムーズに行える。検査・測定で得たデータを正しく分析し、解釈できる。わかりやすい報告書を書くことができる。 各テーマの臨床的意義を述べることができる。被験者の気持ちに配慮し、前向きに接することができる。
<授業の留意点> 授業前にテキストを読んで、内容を理解しておく。各テーマにふさわしい服装で参加する。 自分自身で考えて行動する。 グループの一員として他の構成員を気づかい、協力して、グループ全体の働きをより良くする。
<教科書> ・講師が準備する
<参考書> ・フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア) ・運動学実習 (医歯薬出版) ・リハビリテーション運動生理学(メジカルビュー社)

科目名			区分	
運動学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 運動学はセラピストにとって重要となる臨床現場に直結する運動や動作による評価、あるいは治療としての運動療法などの基盤となる。本講義では生体の構造、機能に関する事項を中心に講義を行う。 <授業目標(GIO)> 物理学・解剖学・生理学の理解のもと、人体の筋骨格系の運動を理解し、身体運動・動作分析の基礎知識を習得する。 <行動目標(SBO)> ・身体運動・動作を科学的に捉える。 ・運動学的用語を説明できる。 ・身体の解剖学的特徴を説明できる。 ・身体の運動学的特徴を説明できる。 ・身体の特徴的な構造と機能を説明できる。 <授業の留意点> 物理学・解剖学・生理学などの、基礎科目の理解は必須である。理解度によっては、講義内容の変更があり得る。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学 <参考書> 適宜紹介	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 運動学の位置づけ	
	2	運動学とは(運動学の歴史、現状と課題)	
	3	生体力学の基礎	
	4	生体力学の基礎	
	5	生体の構造と機能(細胞・組織)	
	6	生体の構造と機能(運動期の構造と機能)	
	7	生体の構造と機能(運動期の構造と機能)	
	8	生体の構造と機能(神経系)	
	9	生体の構造と機能(運動の中樞神経機構)	
	10	生体の構造と機能(感覚器の構造と機能)	
	11	生体の構造と機能(呼吸)	
	12	生体の構造と機能(血液と循環)	
	13	生体の構造と機能(体温調節)	
	14	生体の構造と機能(栄養とエネルギー代謝)	
	15	まとめ	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
運動学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、上肢、下肢、体幹の運動学に関する基礎的な知識を学習する。1年時に履修する解剖学、運動学Ⅰを踏まえ、各関節の運動に着目する。臨床運動学、臨床動作分析、理学療法評価学、運動療法学を履修する上での基礎となる。 <授業目標(GIO)> 身体関節の動きや筋の作用を理解し、各関節のみならず全身の動きの中で理解することができる。 <行動目標(SBO)> ・身体の特徴的な構造と機能を説明できる。 ・解剖学との繋がりを理解する。 ・人の「動き」を理解しイメージできる。 <授業の留意点> ・欠席しない ・予習復習をすること ・積極的に発言、質問すること ・自分の体を使い理解すること <教科書> 標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 運動学 <参考書> ・プロメテウス 解剖学アトラス(医学書院) ・その他 適宜紹介	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	講義
	2	股関節の運動学①	講義
	3	股関節の運動学②	講義
	4	股関節の運動学③	講義
	5	股関節の運動学④	講義
	6	膝関節の運動学①	講義
	7	膝関節の運動学②	講義
	8	膝関節の運動学③	講義
	9	膝関節の運動学④	講義
	10	膝関節の運動学⑤	講義
	11	足関節・足部の運動学①	講義
	12	足関節・足部の運動学②	講義
	13	足関節・足部の運動学③	講義
	14	足関節・足部の運動学④	講義
	15	足関節・足部の運動学⑤	講義
	16	肩関節の運動学①	講義
	17	肩関節の運動学②	講義
	18	肩関節の運動学③	講義
	19	肘関節の運動学	講義
	20	前腕の運動学①	講義
	21	前腕の運動学②	講義
	22	手関節の運動学①	講義
	23	手関節の運動学②	講義
	24	手指の運動学①	講義
	25	手指の運動学②	講義
	26	手指の運動学③	講義
	27	上肢筋の神経支配	講義
	28	脊柱の運動学①	講義
	29	脊柱の運動学②	講義
	30	脊柱の運動学③	講義
	31	定期試験	
成績評価			
定期試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
臨床運動学Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常(健常)の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうるところを推測できるようにするための基盤を習得するものである。 <授業目標(GIO)> ・姿勢、基本動作、歩行などヒトの正常(健常)な動作を理解する。 ・正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験問題を解釈できるようになる。 <行動目標(SBO)> ・姿勢、基本動作、歩行などに関わる用語を述べるができる。 ・姿勢における重心の位置や姿勢制御について説明することができる。 ・基本動作における正常パターンについて説明することができる。 ・歩行における相を理解し、各相の機能的役割および原理を説明することができる。 <授業の留意点> ・欠課しないこと ・予習復習を行うこと ・講義には積極的に取り組むこと <教科書> ・基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版) ・観察による歩行分析(医学書院) ・動作分析 臨床活用講座(メジカルビュー社) <参考書> ・日常生活活動の分析 ・The Center of the Body ・症例動作分析 ・結果の出せる整形外科理学療法	授業計画		備考
	1	運動力学の基礎	講義
	2	姿勢と姿勢制御のバイオメカニクス	講義
	3	姿勢と姿勢制御のバイオメカニクス	講義・演習
	4	起居動作(寝返り・起き上がり)	講義
	5	起居動作(寝返り・起き上がり)	講義・演習
	6	起立・着座	講義・
	7	起立・着座	講義・演習
	8	正常歩行	講義
	9	正常歩行	講義
	10	正常歩行	講義・演習
	11	正常歩行	講義・演習
	12	その他の動作	講義・演習
	13	様々な動作の観察	演習
	14	様々な動作の観察	演習
	15	様々な動作の観察	発表
	16	定期試験	
	成績評価		
	定期試験:90%		
	課題レポート、発表:10%		

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
臨床運動学Ⅱ			基礎	専門基礎
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	授業形態
運動学Ⅰ・Ⅱ及び臨床運動学Ⅰで習得した知識を踏まえ、より専門的な人体の構造や機能と身体運動との関係性について理解する。		1 「正常の姿勢及び動作の確認」 基礎知識の復習と確認を行い学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		2 「動作についての評価実践」 臨床運動学Ⅰで学んだ正常動作の中から歩行に注目し、グループで10m歩行評価及び歩幅や歩隔などを演習を通し確認。実践的に学習する	演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		3 「動作についての評価実践」 臨床運動学Ⅰで学んだ正常動作の中から歩行に注目し、グループで10m歩行評価及び歩幅や歩隔などを演習を通し確認。実践的に学習する	演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		4 「動作観察内容のグループ発表会」 10m歩行観察結果と評価データについてグループ学習を行い、その内容の発表会を行い知識共有し学習する。	演習・講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		5 「動作観察内容のグループ発表会」 10m歩行観察結果と評価データについてグループ学習を行い、その内容の発表会を行い知識共有し学習する。	演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		6 「異常動作の捉え方」 異常動作における逸脱動作及び代償動作について学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		7 「異常動作の捉え方」 異常動作における代表的な例とその原因について様々な疾患特性と関連付けながら学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		8 「異常動作の捉え方～基本動作～」 起居動作、起立・着座動作について臨床で起こりやすい異常動作の例を紹介しその代表的原因を学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		9 「異常動作の捉え方～歩行～」 臨床で起こりやすい異常歩行の例を紹介しその代表的原因と疾患を学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		10 「異常歩行についてグループ学習」 ①小児②高齢者③運動器疾患④痛み⑤末梢神経疾患⑥中枢神経疾患の異常動作と原因について調べ学習しまとめる。	演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		11 「異常歩行についてグループ学習」 ①小児②高齢者③運動器疾患④痛み⑤末梢神経疾患⑥中枢神経疾患の異常動作と原因について調べ学習しまとめる。	演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		12 「異常歩行についてグループ発表会」 各疾患について調べた内容を共有し学習の確認を行う。	講義・演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		13 「異常歩行についてグループ発表会」 各疾患について調べた内容を共有し学習の確認を行う。	講義・演習
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		14 「臨床運動学Ⅱのまとめ」 講義で学んだ内容について、再度人体解剖および関節運動、筋活動と関連付けて代表的異常動作の現象を学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		15 「臨床運動学Ⅱのまとめ」 講義で学んだ内容について、再度疾患の症状と関連付けて代表的異常動作の現象を学習する。	講義
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		16 定期試験	
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		成績評価	
疾患と異常運動との関係性を理解し、観察・分析能力を身に付ける。		・定期試験：90% 課題レポート、発表：10%	

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
人間発達学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 核家族化、少子化など、環境の変化に伴い、出生から死に至る過程に直接関わる機会は非常に少なくなっている。主体的にも環境との相互作用においても、常に変化しつづける存在である人間の生涯における発達において、各期の特徴を把握し、量的・質的な側面から理解を深めて行く内容にしたい。	<授業目標(GIO)> 総論では人間の発達の特徴、発達理論、発達に影響する因子などについて、各論では各期における、量的・質的な側面から理解を深めていくこと。	1 人間発達の特徴、代表的な発達理論	講義
		2 発達に影響する因子、環境との相互作用	講義
		3 胎児期の発達	講義
		4 身体的正常発達 ①	講義
		5 身体的正常発達 ②	講義
		6 粗大運動の発達 ①	講義
<行動目標(SBO)> 1. 身体的な発達を理解する。(小児期～老年期) 2. 認知機能の発達を理解する。 3. 視覚機能の発達を理解する。 4. 社会性の機能の発達を理解する	<授業の留意点> 各配布資料をまとめておくこと	7 粗大運動の発達 ②	講義
		8 粗大運動の発達 ③	講義
		9 視覚機能の発達	講義
		10 上肢機能の発達	講義
		11 認知機能の発達	講義
		12 社会性の機能発達	講義
<教科書> イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版	<参考書> 「生涯人間発達学」 上田礼子 (三輪書店) 標準理学療法学・作業療法学 専門分野 人間発達学	13 成人期から老年期における身体的変化 ①	講義
		14 成人期から老年期における身体的変化 ②	講義
		15 まとめ	
		16 定期試験	筆記試験
		成績評価	
		・定期試験:100%	

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

科目名			区分	
運動生理学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 近年死因の第1位は、悪性新生物だが、それ以降の死因は、生活習慣病(動脈硬化性疾患)が主である。これを予防するため、一次、二次予防の観点から運動の必要性が高まっている。運動は、適切に行うことで身体に望ましい効果をもたらすが、誤った方法は、身体に不利益をもたらす可能性がある。本科目は、運動による身体反応(運動生理学)を理解し、各疾患の運動療法へ繋げる。 <授業目標(GIO)> 運動に対する身体器官(筋・神経・循環・代謝・呼吸)の反応と変化を記述できるようになる。 運動により身体が受ける影響を記述し、説明できるようになる。 <行動目標(SBO)> 1年次に学習した、生理学を各個人が自己学習にて補い、授業に臨む。 運動(活動)により生じる基礎分野(生理・解剖・運動)の反応を関係付ける。 <授業の留意点> 1年次の生理・解剖・運動学を再度学習する。 積極的に発言する。 <教科書> リハビリテーション運動生理学/MEDICAL VIEW 玉木彰 監修/解良武士 編集 <参考書> 基礎運動学 第6版 補訂 その他、図書室生理学教科書を参照		1 筋の運動生理学の内容において、筋収縮とエネルギー供給およびそのエネルギー源、身体活動時のATP供給を学習する。	講義
		2 筋の運動生理学の内容において、筋繊維の種類と特徴、筋線維組成について学習する。	講義
		3 筋収縮における神経の役割と神経筋接合部について理解し、運動単位および筋の収縮様式と筋力について学習する。	講義
		4 換気の運動生理学の内容について、呼吸器の構造、気道と肺胞、胸郭の動きと構造を学習する。	講義
		5 換気の運動生理学における換気メカニクス、フローボリューム曲線、姿勢変化や運動時の肺気量分画の変化を学ぶ。	講義
		6 呼吸筋疲労、呼吸中枢と呼吸調節、運動中の換気調節の仕組みを学ぶ。	講義
		7 ガス交換の運動生理学において、ガス交換換気の仕組み、および肺胞でのガス交換の機序を学習する。	講義
		8 呼吸代謝とその指標、最大酸素摂取量、アネロビックパワーについて学習する。	講義
		9 循環の運動生理学における循環系の構造、固有心血管と特殊心筋および心音と心周期について学習する。	講義
		10 循環の運動生理学における一回拍出量・心拍数・心拍出量、骨格筋ポンプ作用、呼吸ポンプ作用を学習する。	講義
		11 心血管の機能的特性、拡張能と収縮能、大血管の弾性について学習する。	講義
		12 循環の運動生理学における、心血管の自律神経系の調節、心拍数の調整、血圧、血圧を調整する仕組み、血圧の神経性調節について学習する。	講義
		13 体温調節機構および運動と体温調節を学習する。またエネルギー代謝、栄養とリハビリテーション、運動時のホルモン調節について学習する。	講義
		14 身体組成モデルから基本的な身体計測学的指標、身長・体重・BMIの計測値をもとに理解し学習していく。	講義
		15 身体組成指標の測定方法および身体組成測定法で得られる各指標、身体組成の異常を学習する。	講義
		16 定期試験	
成績評価			
定期試験100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
基礎医学特論 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 基礎分野(解剖学・運動学・生理学)について、能動的に学習し、専門分野への学習に役立てる。基礎分野についての学習方法を身につけ、グループ学習を通じ、自ら協力して文献を見ていく習慣を身につける。国家試験に関連する学習を行い、考え方やイメージをつかみながら学習する。 <授業目標(GIO)> 基礎分野への関心を深め、理解すること。わからない→調べるへの、学習方法の修得。 人体の基礎的な構造を知ること。 <行動目標(SBO)> 人体の構造をなす骨、内臓、神経系等を身近に感じようにする。 簡単な解剖、生理、運動学から複雑な分野(疾患)へ関係付ける。 問題点などに対し、各教科書等を使い、調べる。 <授業の留意点> 調べる教材は必ず持ってくる。 人に頼らず、自分自身で調べること。 <教科書> 標準理学療法学 専門基礎分野 生理学 <参考書>	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	講義
	2	”学習する”とは	講義・演習
	3	神経と興奮伝導と末梢神経	講義・演習
	4	神経と興奮伝導と末梢神経	講義・演習
	5	中枢神経系	講義・演習
	6	骨格筋	講義・演習
	7	小テスト	演習
	8	”調べる”ということ	講義・演習
	9	神経と興奮伝導と末梢神経	講義・演習
	10	中枢神経系	講義・演習
	11	骨格筋	講義・演習
	12	小テスト	講義・演習
	13	国家試験問題演習	演習
	14	国家試験問題演習	演習
	15	まとめ	演習
	成績評価		
	課題:50%、演習点:50%		

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
基礎医学特論Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

	授業計画		備考
	1	2	
<授業概要> 国家試験に向け、主要三科目(生理・解剖・運動学)への取り組みを行う。	オリエンテーション		講義
	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
<授業目標(GIO)> 主要三科目の問題を解き、年度末に行われる主要三科目模試を解く力を身につける。	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
<行動目標(SBO)> 国家試験問題を解くために適切な教科書を選ぶ 選んだ教科書の内容から適切な解説を作成する 解説内容を相手に説明する	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
<授業の留意点> グループ学習に取り組む 欠席をしないこと	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
<教科書> 解剖学・生理学・運動学に関する教科書	グループワーク		講義
	グループワーク		講義
<参考書> 必要に応じて各自で用意すること	グループワーク		講義
成績評価			
課題提出:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
基礎医学特論演習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

授業計画		備考
1	・自己学習 ・ペア学習(一問一答) ・グループでのシェア学習 ・特別講義 ・模擬試験 ・小テスト 上記内容を中心とした国家試験対策を図る。また、このとき、学習状況や理解度を 確認しながら随時検討を図っていき、妥当	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
成績評価		
課題提出100%		

<授業概要> 国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義 等を行なう。	
<授業目標(GIO)> 国家試験対策として自己学習、グループ学習、特別講義等の実施を通して、基礎分野における知識の定着化を図る。	
<行動目標(SBO)> ・国家試験の過去問を通して一問一答形式に対応できる知識を身に付ける。 ・グループ学習においてインプットやアウトプットをすることで知識を整理し、定着を図る。 ・問題を繰り返し解くことで解答の仕方や早さを身に付ける。	
<授業の留意点> 自己学習やグループ学習において生じた疑問や解釈が難しい内容等については、適宜、質問や調べ学習等の実施を図り、速やかな解決に努めること。	
<教科書> 国家試験対策本(後日購入) 各自で必要な教科書使用	
<参考書> 各自で必要時に使用	

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
リハビリテーション用語			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> リハビリテーション用語の意味、英語について学習をすることで専門用語に慣れる。	授業計画		備考
	1	オリエンテーション リハビリテーション用語(概論系)	講義
	2	リハビリテーション用語(機能解剖)	講義・小テスト
	3	リハビリテーション用語(骨、筋)	講義・小テスト
<授業目標(GIO)> 各教科や臨床実習で使用されるリハビリテーション用語を理解、使用することができる。	4	リハビリテーション用語(運動学)	講義・小テスト
	5	リハビリテーション用語(運動学)	講義・小テスト
	6	リハビリテーション用語(生理学、心理学)	講義・小テスト
	7	リハビリテーション用語(評価、診断ADL)	講義・小テスト
<行動目標(SBO)> ・リハビリテーション用語(英語)について説明することができる。 ・各々のリハビリテーション用語(英語)を理解し、使用することができる。	8	リハビリテーション用語(疾患と症状)	講義・小テスト
	9	リハビリテーション用語(脳血管障害)	講義・小テスト
	10	リハビリテーション用語(二次的障害)	講義・小テスト
	11	リハビリテーション用語(障害、治療)	講義・小テスト
<授業の留意点> ・授業に積極的に参加し、遅刻や欠課をしないこと。 ・毎回小テストを実施するので、毎回の授業の復習を行うこと。	12	リハビリテーション用語(治療)	講義・小テスト
	13	リハビリテーション用語(道具、用具)	講義・小テスト
<教科書> ・配布資料	14	リハビリテーション用語(作業、言語、義肢装具)	講義・小テスト
<参考書> 電子辞書	15	まとめ	小テスト
	16	定期試験	
	成績評価 小テストの平均点(40%)、定期試験(60%)の合計点数評価とする。		

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
臨床心理学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 臨床心理学の中心的な課題を、実際の観点から深め、人間理解と臨床のセンスの基礎を身につけられるようにする。 <授業目標(GIO)> 臨床心理学の基礎を学ぶ。 <行動目標(SBO)> 日常生活に役立つ観点を身につける。 <授業の留意点> 講義の中で繰り返し話されることが、試験問題になるのでよく聞いてほしい。 <教科書> ・プリント配布 <参考書>	授業計画		備考
	1	自我の強さと悩む力	
	2	心理査定と心理療法	
	3	個人療法と集団療法	
	4	家族療法とその他の心理療法	
	5	ストレスと心理的反応	
	6	心の病のいろいろ	
	7	文化や文明とストレス	
	8	心の健康	
	9	心理テストの種類	
	10	性格と無意識の行動	
	11	性格とストレス耐性	
	12	自己理解と他者理解	
	13	事例から学ぶ(1)	
	14	事例から学ぶ(2)	
	15	事例から学ぶ(3)	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験・レポート100%			

※1 精神保健福祉士として病院で実務経験32年以上

科目名			区分	
病理学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 適切なリハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。 <授業目標(GIO)> 専門科目の学習に必要最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 <行動目標(SBO)> 疾病の基礎的な概念を理解している 主な疾病の病態生理について説明できる 問題解決型の学習法を修得している <授業の留意点> 今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。 <教科書> ・わかりやすい病理学 (南江堂) <参考書> ・標準理学療法学・作業療法学 病理学 (医学書院)	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 病因論:先天異常	講義
	2	病因論:感染症	講義
	3	炎症と免疫	講義
	4	腫瘍学総論	講義
	5	循環障害	講義
	6	病理学各論:循環器	講義
	7	退行性・進行性病変	講義
	8	運動骨格器	講義
	9	病理学各論:消化管	講義
	10	病理学各論:肝・胆嚢・膵	講義
	11	病理学各論:呼吸器	講義
	12	病理学各論:血液疾患・泌尿器	講義
	13	病理学各論:中枢神経	講義
	14	病理学補講	演習
	15	まとめ	講義
	16	後期定期試験	
成績評価			
筆記試験100%			

※1 医師として病院で実務経験2年以上

科目名			区分	
内科学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリントに図表を入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

※1 医師として病院で実務経験59年以上

科目名			区分	
整形外科 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。 <授業目標(GIO)> 運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 <行動目標(SBO)> ・四肢・脊柱の構造を理解する。 ・一般的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。 ・理学・作業療法士に必要な知識を習得する。 <授業の留意点> ・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する <教科書> ・「標準整形外科学 第11版」(医学書院) <参考書> ・「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版」(医学書院)	授業計画		備考
	1	総論 整形外科とは	講義
	2	整形外科基礎知識 骨・軟骨・関節	講義
	3	整形外科基礎知識 筋・神経	講義
	4	基本的検査 基本的検査・運動器検査・診断について	講義
	5	整形外科的治療法	講義
	6	炎症性疾患 炎症とは	講義
	7	炎症性疾患 感染症	講義
	8	炎症性疾患 非感染性関節疾患・リウマチ	講義
	9	炎症性疾患 その他の炎症性疾患・肩関節周囲炎	講義
	10	代謝・内分泌性疾患 くる病・痛風	講義
	11	退行性疾患 骨粗鬆症・変形性関節症	講義
	12	退行性疾患 変形性関節症	講義
	13	循環障害 四肢・骨・骨端部	講義
	14	骨軟部腫瘍	講義
	15	脊椎の疾患	講義
	16	定期試験	
成績評価			
・筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
整形外科Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に理学・作業療法士が臨床で遭遇する整形外科分野の代表疾患を中心に幅広い知識を教授し、習得していく。 <授業目標(GIO)> 運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 <行動目標(SBO)> ・四肢・脊柱の構造を理解する。 ・一般的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。 ・理学・作業療法士に必要な知識を習得する。 <授業の留意点> ・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する <教科書> ・「標準整形外科学 第11版」(医学書院) <参考書> ・「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科 第3版」(医学書院)	授業計画		備考
	1	骨折とは	講義
	2	骨折上肢 上腕骨近位端骨折・上腕骨顆上骨折	講義
	3	骨折上肢 前腕骨骨折、モンテジア骨折、舟状骨骨折、ペネット骨折、槌指	講義
	4	骨折下肢 大腿骨近位部骨折、脛骨近位端骨折、下腿骨骨折	講義
	5	骨折下肢 足関節部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折	講義
	6	脊髄損傷	講義
	7	捻挫と脱臼	講義
	8	末梢神経障害	講義
	9	末梢神経障害	講義
	10	腱・靱帯における外傷性疾患	講義
	11	スポーツ障害	講義
	12	スポーツ障害	講義
	13	熱傷・切断	講義
	14	片手症候群・CRPS	講義
	15	まとめ	講義
16		定期試験	
成績評価			
・筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
神経内科学Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> リハビリテーションの主な対象となる神経疾患の病態と診断、治療について学ぶ。 神経疾患特有の障害に対する検査法と基本的なリハビリテーションへの理解を深める。 <授業目標(GIO)> 神経疾患による障害に対するリハビリテーションを安全に実施するために、疾患の病態、検査、治療、管理を理解する。 <行動目標(SBO)> リハビリテーションを安全に行う上で必要な医学的管理とそれに関連する情報を収集することができる。 神経疾患による障害に対して、適切な検査方法を選択できる。 <授業の留意点> リハビリテーションを実施する上で必要な医学的情報について理解し、神経疾患に対する知識を身につけること。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 (医学書院) <参考書> ・必要に応じて参考プリントを配ります。 ・板書もするのでノートも準備するように。	授業計画		備考
	1	・障害とリハビリテーションプログラム	講義
	2	・中枢神経系の解剖と機能(復習)	講義
	3	・中枢神経系の解剖と機能(復習)	講義
	4	・脳血管障害	講義
	5	・脳血管障害	講義
	6	・脳血管障害のリハビリテーション	講義
	7	・脳血管障害のリハビリテーション	講義・演習
	8	・脊髄疾患	講義
	9	・脊髄疾患	講義
	10	・脊髄疾患	講義
	11	・廃用症候群と誤用症候群、合併症	講義
	12	・廃用症候群と誤用症候群、合併症	講義
	13	・廃用症候群と誤用症候群、合併症	講義
	14	・総括	講義
	15	・まとめ	講義
	16	期末試験	
成績評価			
筆記試験90%、課題提出10%			

※1 医師として病院で実務経験30年以上

科目名			区分	
神経内科学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> リハビリテーションの主な対象となる神経意疾患の病態と診断、治療について学ぶ。神経疾患特有の障害に対する検査法と基本的なリハビリテーションへの理解を深める。 <授業目標(GIO)> 神経疾患による障害に呈するリハビリテーションを安全に実施するために、疾患の病態、検査、治療、管理を理解する。 <行動目標(SBO)> リハビリテーションを安全に行う上で必要な医学的管理とそれに関連する情報を収集することができる。神経疾患による障害に対して、適切な検査方法を身につけること。 <授業の留意点> リハビリテーションを実施する上で必要な医学的情報について理解し、神経疾患に対する知識を身につける。 <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学(医学書院) 病気が見える 脳と神経 <参考書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 プロメテウス解剖学アトラス 神経解剖	授業計画		備考
	1	中枢神経系の解剖と機能について	講義
	2	神経症候学 ①意識障害	講義
	3	神経症候学 ②運動麻痺、錐体路徴候	講義
	4	神経症候学 ③錐体外路徴候	講義
	5	神経症候学 ④運動失調	講義
	6	神経症候学 ⑤感覚障害	講義
	7	高次機能障害 ①	講義
	8	高次神経障害 ②	講義
	9	認知症	講義
	10	構音障害	講義
	11	嚥下障害	講義
	12	変性疾患、脱髄疾患	講義
	13	錐体外路の変性疾患	講義
	14	筋疾患	講義
	15	まとめ	講義
	16	定期試験	筆記試験
成績評価			
定期試験:100%			

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

科目名			区分	
脳神経外科学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 各症候、疾病がどのようにして発生するかという脳神経外科学的病態生理を基礎として、要点はプリントにまとめ、講義の習得が容易となるように配慮する。 講義ではCT、MRIなどの最新画像を多く提示し画像に慣れるように指導する。	<授業目標(GIO)> 脳神経外科学はセラピストに必須の学問であり、解剖を含めて系統的に受講することによって、中枢性疾患の基礎を習得する。	1 総論	講義
		2 神経系の解剖と機能	講義
		3 主要神経症候と病態	講義
		4 神経心理学	講義
<行動目標(SBO)> 中枢神経学的疾患を理解し、症状の概念を掴む。 脳や脊髄の疾患を解剖学的基礎から機能まで理解を深めリハビリテーションの臨床へ応用できるようにする。		5 脳血管障害の急性期から慢性期におけるリハビリテーションの関与	講義
		6 脳血管障害	講義
		7 頭部外傷	講義
		8 脳腫瘍	講義
		9 脊髄・脊椎疾患	講義
		10 機能脳神経外科	講義
		11 中枢神経系の炎症性疾患	講義
		12 先天異常、水頭症など	講義
<授業の留意点> 神経解剖を基礎として脳神経外科学的疾患や神経心理学の理解を深めること。		13 まとめ(1)	講義
		14 まとめ(2)	講義
		15 まとめ(3)	講義
<教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学(医学書院)		16 後期末試験	
<参考書> まとめとして、プリントを配布		成績評価	
		筆記試験100%	

※1 医師として病院で実務経験34年以上

科目名			区分	
精神医学Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> リハビリテーション実践の場で必要とされる精神症状や精神疾患を有する患者に必要な、基本的事項について学ぶ。 <授業目標(GIO)> リハビリテーション実践の場で必要とされる精神症状や精神疾患を有する患者に必要な、基本的事項について学ぶ。 <行動目標(SBO)> ①精神医学の概要を説明することができる ②精神障害の成因と分類について説明することができる ③精神機能の障害と精神症状について説明することができる ④精神疾患について説明することができる <授業の留意点> <教科書> 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(第4版) 医学書院 <参考書> 現代臨床精神医学(改訂第11版) 金原出版 標準精神医学(第3版) 医学書院	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	
	2	精神医学とは	
	3	精神機能の障害と精神症状	
	4	精神機能の障害と精神症状	
	5	精神機能の障害と精神症状	
	6	統合失調症およびその関連障害	
	7	統合失調症およびその関連障害	
	8	気分障害	
	9	気分障害	
	10	認知症	
	11	神経症性障害	
	12	精神作用物質による障害	
	13	パーソナリティ障害 精神遅滞	
	14	てんかん 摂食障害	
	15	心理的発達の障害	
	16	定期試験	
成績評価			
定期試験:100%			

※1 作業療法士として病院で実務経験7年以上

科目名			区分	
小児科学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 専任教員(※3) 非常勤講師(※4)

授業計画		備考
1	・小児科学とは	講義
2	・成長と発達	講義
3	・診断と治療	講義
4	・新生児と未熟児	講義
5	・先天異常と遺伝病	講義
6	・神経・筋・骨格の疾患(1)	講義
7	・神経・筋・骨格の疾患(2)	講義
8	・小児のガン ・児童虐待	講義
9	・循環器	講義
10	・呼吸器	講義
11	・眼科、耳鼻科	講義
12	・心身医学的疾患、虐待	講義
13	・消化器疾患と小児ガン	講義
14	・小児科学トピックス	講義
15	・まとめ	講義
16	・前期定期試験	
成績評価		
・筆記試験:100%		

<授業概要>

・子どもの出生から思春期にいたるまでの健康と発達を理解し、将来の社会人として最大限の能力を発揮できるように支援することを学ぶ。子どもの体の生長と機能の発達の特徴を学び、その正常な生長と発達の障害の原因を理解する。如何にして子どもの健康状態を評価するかの基礎知識を得る。次年次以降の小児の障害対策について知識と技能を習得する基礎知識を養う。

<授業目標(GIO)>

・将来、医療に携わる専門職として不可欠な小児の生長と発達について、及び育児環境について社会体制を含め体系的な理解を得る。

<行動目標(SBO)>

・子どもの成長と発達について各期の特徴を述べることができる。

・子どもは大人の体を小さくしただけではないことを科学的に述べることができる。

・小児期の育児環境が及ぼす将来への影響を説明できる。

・小児期に特徴的な身体と精神の疾患について説明できる。

・育児に関する社会福祉体制を述べるができる。

<授業の留意点>

・生理的な成長、発達にとどまらず、子どもを取り巻く社会環境を含めて広く小児科学を理解する。子どもが社会の宝であることを理解し、守り育てることを学ぶ。

<教科書>

・標準理学療法学・作業療法学
専門基礎分野 小児科学(医学書院)

<参考書>

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 作業療法士として介護老人保健施設で実務経験3年以上

※3 作業療法士として病院で実務経験5年以上

※4 医師として病院で実務経験37年以上

科目名			区分	
機能障害学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・ 理学療法的主要な治療対象となる身体器官の機能的諸問題について学ぶ。 ・ 様々な器官の損傷によってもたらされる身体変化（治癒過程とイベントを含む）に対して求められる理学療法士としての関わり方について学ぶ。 <授業目標(GIO)> 身体器官における機能的諸問題について病態や発生メカニズムを含めて理解する。 <行動目標(SBO)> ・ 身体器官の構造的特徴と生理的機能が理解できる。 ・ 身体器官における病態及び発生メカニズムについての基本的概要を説明することができる。 <授業の留意点> ・ 臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識した上で臨むこと ・ 単なる暗記ではなく、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的な学習姿勢で臨むこと。 <教科書> ・ 『機能障害科学入門』千住秀明（監）神稜文庫 ・ 配布プリント・資料 等 <参考書>	授業計画		備考
	1	症候と障害の違いを理解し、ICD・ICIDH・ICFについて学習する	講義
	2	炎症の定義と肉眼的特徴について理解し、急性及び慢性炎症について学習する	講義
	3	細胞死や炎症における組織変化（肉眼的特徴の発生）について学習する	講義
	4	創傷の定義と分類について理解し、その治癒過程とイベントについて学習する	講義
	5	骨折の定義を理解し様々な骨折と走行形態について学習する	講義
	6	骨折の全身症候と局所症候を理解し、その治癒過程とイベントについて学習する	講義
	7	靱帯損傷の定義を理解し、その治癒過程とイベントについて学習する	講義
	8	腱損傷の定義を理解し、その治癒過程とイベントについて学習する	講義
	9	筋損傷の定義を理解し、損傷の特徴と画像所見(MRI)について学習する	講義
	10	筋損傷における治癒過程とイベントについて理解し損傷後にみられる変化について学習する	講義
	11	末梢神経損傷の分類を理解し、SD曲線の特徴を踏まえて回復過程とイベントについて理解する	講義
	12	運動麻痺の定義を理解し、中枢神経性麻痺の回復の特徴について学習する	講義
	13	筋トーン異常(亢進・低下)の定義を理解し、片麻痺患者特有の異常姿勢(肢位)と運動パターンを学習する	講義
	14	意識障害の定義や分類を理解し、その特徴と意識障害の評価法(JCSとGCS)について学習する	講義
	15	高次脳機能障害の定義について理解し、代表的な症候(失行・失認・失語)について学習する	講義
	16	定期試験	
成績評価			
・ 筆記試験：80%、小テスト：20%			

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

科目名			区分	
リハビリテーション医学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

<授業概要> リハビリテーション医学とは何か、成り立ちと今後について、さらに基礎となる学問体系を概説し、リハビリテーションで対象となる疾患に対する診断や治療の進め方を解説する。 <授業目標(GIO)> 概略と歴史を学び、疾患別のリハビリテーションを学ぶことで基礎科目の重要性を知り、学習意欲につなげる。 <行動目標(SBO)> ・リハビリテーションの一連の流れ、概略、歴史について説明できる。 ・疾患別のリハビリテーションを説明できる。 <授業の留意点> <教科書> PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第2版 診断と治療社 <参考書>	授業計画		備考
	1	リハビリテーション医学とは何か	
	2	リハビリテーション医学とは何か	
	3	リハビリテーション医学とは何か	
	4	リハビリテーション医学とは何か	
	5	脳卒中のリハビリテーション	
	6	パーキンソン症候群のリハビリテーション	
	7	神経・筋疾患のリハビリテーション	
	8	脊髄損傷のリハビリテーション	
	9	四肢切断のリハビリテーション	
	10	運動器疾患のリハビリテーション	
	11	関節リウマチのリハビリテーション	
	12	脳性麻痺のリハビリテーション	
	13	心筋梗塞のリハビリテーション	
	14	呼吸器疾患のリハビリテーション	
	15	生活習慣病のリハビリテーション	
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

※3 医師として病院で実務経験41年以上

科目名			区分	
臨床医学特論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 2年次までに学習した内容の復習をグループ学習や調べ学習を通して行い、国家試験に必要な知識や考え方を身につけていく。 <授業目標(GIO)> ・専門基礎分野について、必要な知識を関連付けて理解することができる。 ・専門基礎分野について、国家試験に出題される基本的な知識を理解する。 <行動目標(SBO)> ・専門基礎分野についての学習方法を身につけ、各々の分野を関連付けてイメージし理解する。 ・グループごとのシェア学習を行い、調べ学習の手法を身につける。 <授業の留意点> グループ学習について、各個人が責任をもって役割を果たし積極的に参加する。理解できるまで学習し、分からないことをそのままにしない。調べる教材は必ず持ってくる。 <教科書・参考書> 必要の場合は各自が持っているものを使用、もしくはプリント等を配布	授業計画		備考
	1	オリエンテーション ～国家試験を受けるにあたって～	
	2	実力試験	
	3		
	4	グループワーク	
	5	発表① 国家試験問題解説	1班・2班・3班
	6	発表② 国家試験問題解説	4班・5班・6班
	7	発表③ 国家試験問題解説	7班・8班・9班
	8	発表④ 国家試験問題解説	10班・11班・12班
	9	発表⑤ 国家試験問題解説	13班・14班・15班・16班
	10	実力試験	
	11		
	12	実力試験振り返り	
	13		
	14	確認試験	
	15		
	成績評価		
	演習点:50%、実技実習点:50%		

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
リハビリテーション概論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

<授業概要> リハビリテーションの理念と基本原理及びその仕組みについて学習する。病気・障害・発達・心理等の基本的内容について教授する。その後、リハビリテーションの諸段階及びリハビリテーションの過程の概要を学習する。 リハビリテーション概論で学習した内容を基盤として、各専門分野の理解が深まることを目的とする。 <授業目標(GIO)> ・リハビリテーションの理念やリハビリテーションの基本的な考え方(病気・障害・心理等)、及びリハビリテーションの流れについて理解する。 <行動目標(SBO)> ・リハビリテーションの概念理解が出来る。 ・病気の概念理解が出来る。 ・障害の概念理解が出来る。 ・発達の概念理解が出来る。 ・人間活動の階層構造が理解出来る。 ・ハビリテーションとノーマライゼーションについて説明できる。 ・国際生活機能分類の概略が理解出来る。 ・神経心理学とその内容について説明出来る。 ・臨床心理学とその内容について説明出来る。 ・発症からリハビリテーション終了までの過程と諸段階での課題について説明出来る。 ・医学的・教育的・職業的・社会的・高齢者の諸相について説明出来る。 ・リハビリテーションのプロセスとリハビリテーションの手段について説明出来る。 <授業の留意点> 教科書のすべてを授業では行えません。講義が終わった項目までは、当日、教科書を読み直し復習を充分に行うこと。 リハビリテーションを学習する上での基本となる科目であることを充分認識しておくこと。 <教科書・参考書> 教科書:入門 リハビリテーション概論 第7版 中村隆一 編 医歯薬出版 リハビリテーション総論 診断と治療社 参考書:必要であれば適時配布	授業計画		備考
	1	オリエンテーション ・障害者と社会	講義
	2	・リハビリテーションの定義と目的	講義
	3	・病気とは	講義
	4	・障害とは	講義
	5	・患者と障害者 ・慢性疾患モデル	講義
	6	・機能志向的アプローチ ・ヘルスケア・システムと包括的ケア	講義
	7	・発達とは ・人間活動	講義
	8	・人間活動 ・現代の障害観と国際生活機能分類	講義
	9	・リハビリテーションの諸段階 発症から社会生活へ／リハビリテーションの諸領域	講義
	10	・リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションの諸領域 ・社会保障制度	講義
	11	・評価とプログラム ・チームアプローチと専門職	講義
	12	・わが国における各専門職 ・リハビリテーションの手段	講義
	13	・リハビリテーションの手段 言語訓練(言語聴覚療法の実際)	講義
	14	・リハビリテーションと心理 心理アセスメント／心理的機能とその障害／心理的適応の過程	講義
	15	理学療法士・作業療法士を目指す学生として	演習
16	定期試験		

成績評価	
※1 定期試験:100%	
※2 定期試験:100%	
※3 筆記試験:80%、小テスト:20%	

※1 作業療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験13年以上

※2 言語聴覚士として病院及び介護老人保健施設で実務経験6年以上

※3 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験9年以上

科目名			区分	
社会福祉学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 私たちの生活を考察し、ライフスタイル、社会の変化について理解を深め、社会保障制度等の仕組みについて学ぶ。介護保険、障害者自立支援法、その他諸制度について学び理解を深める。また、制度改正に関しても情報提供を受け、時代の動きを理解する。クライアントをサポートするために必要な、医療・保健・福祉の連携について理解する。	授業計画		備考
	1	○ オリエンテーション ○ 社会福祉とは	講義
	2	○ 社会福祉の基本的な考え方 ○ 私たちの生活と社会福祉①	講義 DVD視聴
	3	○ 私たちの生活と社会福祉② ○ 日本の社会保障制度①	講義
<授業目標(GIO)> クライアントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わっていくことを理解する。様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、考察する。	4	○ 日本の社会保障制度②	講義
	5	○ 現代社会と社会保障制度①	講義
	6	○ 現代社会と社会保障制度②	講義
	7	○ 介護保険制度のあり方①	講義
<行動目標(SBO)> ①私たちの生活と社会福祉 ②社会保障の仕組み ③介護保険制度のあり方 ④障害者の自立支援を担う法制度のあり方 ⑤人々の権利を擁護する諸制度の仕組み ⑥認知症の理解	8	○ 介護保険制度のあり方②	講義
	9	○ 障害者の自立支援を担う法制度	講義
	10	○ 人々の権利を擁護する諸制度	演習 講義
	11	○ 保健医療に関わる制度	講義
<授業の留意点>	12	○ 生活を支える諸制度	講義
	13	○ 認知症の理解	講義・演習
	14	○ 認知症ケアについて ○ 講義全体のまとめ	DVD視聴・演習 講義
	15	○ まとめ復習	講義
<教科書> 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 (中央法規出版)	16	定期試験	
<参考書>	成績評価		
	筆記試験80%、レポート作成10%、随時テスト10%		

※1 社会福祉士として病院及び特別養護老人ホーム等で実務経験23年以上

科目名			区分	
法令・管理運営論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 理学療法士における法令・管理とは、対象者に質の高い理学療法を施行できるように運営することを目的とする。そのために、臨床現場におけるマネジメントの知識、職場管理、環境整備、リスクマネジメントなどの幅広い知識を本授業で教授していく。また、フィールドワークを行う。	授業計画		備考
<授業目標 (GIO) > 理学療法における法令・管理運営論を体系的に学び、臨床現場に必要な知識を習得する。 <行動目標 (SBO) > ・理学療法管理運営の概要を理解する。 ・良質な医療提供するために必要な知識を習得する。 ・理学療法の課題と解決法を理解する。 <授業の留意点> ・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず積極的に質問する。 <教科書> ・「理学療法管理学」(南江堂) <参考書> プリント等随時	1	・授業の動向についてのオリエンテーションを行う。 ・管理運営における管理者の役割を理解する。	講義
	2	・リスクマネジメント論について学習する。 ・マネジメントやリスク管理について理解する。	講義
	3	・良質な医療提供について学習する。 ・コミュニケーションスキルについて理解する。	講義
	4	・良質な医療提供について学習する。 ・目標管理や分析、評価について理解する。	講義
	5	・良質な医療提供について学習する。 ・PDCA、EBM、情報提供について理解する。	講義
	6	・臨床現場におけるデータ管理について学習する。 ・業務管理、診療報酬データについて理解する。	講義
	7	・臨床現場におけるデータ管理について学習する。 ・診療記録、症例報告、管理者ネットワークについて理解する。	講義
	8	・社会保障と保険制度について学習する。 ・医療、介護の制度と報酬について理解する。	講義
	9	・社会保障と保険制度について学習する。 ・政策、財政について理解する。	講義
	10	・身分法と職能団体について学習する。 ・理学療法士身分法と職能団体について理解する。	講義
	11	・身分法と職能団体について学習する。 ・理学療法士の業務と関連法案について理解する。	講義
	12	・職域の拡大について学習する。 ・背景、現状と方向性について理解する。	講義
	13	・理学療法士の未来像について学習する。 ・社会情勢、未来への開拓について理解する。	講義
	14	・これまでの講義を振り返り、全体的なまとめを行う。	講義
	15	・これまでの講義を振り返り、全体的なまとめを行う。	講義
	16	定期試験	
成績評価			
・筆記試験:50%、レポート:50%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
理学療法概論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> ・社会の中の理学療法士の役割・位置づけを理解し、理学療法の全体像を把握する。 ・理学療法の定義と歴史、その背景となった倫理・哲学の学習を通して、理学療法の対象と方法を概観することにより、今後学習する理学療法の各論の知識の総合・統合化への基礎を作る。 ・理学療法の治療種類や対象者への接遇を学ぶ。		1 「理学療法と倫理」について概要を学ぶ ・倫理(学)とは何か ・哲学とは何か ・なぜ理学療法と倫理、哲学を考えるのか ・人間としての責任、職業倫理 ・日本理学療法士協会の倫理綱領	講義
<授業目標(GIO)> ・理学療法の業務に関わる総合知識を身につける。 ・社会のニーズに応え得る理学療法士の育成を目指す。 ・理学療法士とは何か、自分たちの言葉で他者に伝えることができる。		2 「理学療法の歴史と活動」について概要を学ぶ ・理学療法とリハビリテーション ・近代医療における理学療法・理学療法の定義とその範囲 ・理学療法とリハビリテーションの歴史 ・物理療法の歴史 ・運動療法の歴史 ・疾患別理学療法およびリハビリテーション	講義
<行動目標(SBO)> ・理学療法(士)の定義を述べることができる。 ・理学療法および医療人としての倫理観を学ぶ。 ・理学療法の対象について述べるができる。 ・理学療法士としての適性を判断し実行できる。 ・理学療法士の組織と活動について述べるができる。 ・理学療法の対象とそれに適した治療手段がわかる。 ・患者やその家族の心理を理解した対応ができる。		3 「理学療法士の法律制度」について概要を学ぶ ・法令とは ・保健、医療、福祉などに関わる法律の種類、法律の目的規定 ・理学療法士及び作業療法士法の内容 ・理学療法士に関わる医療関連の法律 ・理学療法士及び作業療法士法の課題と理学療法業務の拡大	講義
<授業の留意点> ・理学療法(士)に興味を持ち、授業においては積極的な発言を望む。 ・理学療法(士)の全体像を捉えるよう努力する。 ・自分の考えを持ち積極的に参加する。また他者の意見を聞き入れ考える視点を広げる努力をする。		4 「理学療法の基礎」について概要を学ぶ ・理学療法に関わる国際分類 ・臨床思考過程 ・根拠に基づく理学療法 ・理学療法教育の基礎 ・課題と展望	講義
<教科書> ・理学療法概論 第6版(医歯薬出版)		5 「理学療法士としての適性」について概要を学ぶ ・出会い、選択、動機 ・適性と資質の基本概念 ・理学療法士としての適性 ・理学療法士の遂行能力 ・適性の重視と育成	講義
<参考書> ・入門リハビリテーション概論 第7版(医歯薬出版) ・リハビリテーション総論 改訂第2版(診断と治療社) ・理学療法学概論 第4版(九州神陵文庫)		6 「理学療法の対象と治療手段」について概要を学ぶ ・身体運動機能と構成要素(筋・骨格機能、神経筋機能、内部機能、感覚・知覚機能、認知機能、姿勢制御機能、協調運動機能)	講義
		7 「理学療法の対象と治療手段」 ・理学療法の対象とdisability構造 ・理学療法の分類	講義
		8 「理学療法の対象と治療手段」について概要を学ぶ ・運動療法(関節可動域運動、筋力増強運動、筋持久性向上運動、呼吸練習、運動負荷練習、バランス練習、協調運動練習、運動発達過程に基づく運動動作の獲得、感覚情報の利用、機能的動作練習)	講義
		9 「理学療法の対象と治療手段」について概要を学ぶ ・理学療法実践のための基礎(理学療法の起点、運動動作、運動学習の概念、対象者と理学療法士との関係)	講義
		10 「理学療法の対象と治療手段」 ・機能損傷・不全に対する理学療法(運動器機能損傷に対する理学療法、中枢神経疾患に対する理学療法、運動発達不全に対する理学療法内部機能不全に対する理学療法)	講義
		11 「理学療法の対象と治療手段」について概要を学ぶ ・活動制限に対する理学療法(日常生活活動と理学療法、家屋改造)	講義
		12 「理学療法士の役割とその職域」について概要を学ぶ ・理学療法士の業務(理学療法の定義、理学療法士の業務、新たな業務、理学療法士の名称使用に関する厚生労働省の通知、理学療法士業務の現状)	講義
		13 「理学療法(士)の役割とその職域」 ・理学療法士の主な職域(医療施設、介護保険施設、障害児福祉施設、介護予防、健康増進施設、行政や教育の現場)	講義
		14 「理学療法士の現状および医療法」について概要を学ぶ ・国家試験合格者の推移と養成校の現状 ・理学療法士の就業状況 ・医療法の趣旨と目的 ・医療法改正、報酬制度改定と理学療法士 ・今後期待される領域	講義
		15 「理学療法部門における管理」について概要を学ぶ ・組織的集団と非組織的集団 ・病院組織とリスクマネジメント ・医療安全管理のための取り組み ・理学療法部門の管理 ・病院機能評価におけるリハビリテーション部門の項目 ・自己管理(マネジメントとリーダーシップ、時間の管理、ストレスへの対応)	講義
		16 定期試験	
		成績評価	
		筆記試験:100%	

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
理学療法概論実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	45 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者

<授業概要> 当校における1年次の実習は、早期臨床体験実習と同じ位置づけで行い、養成校入学時の漠然とした理学療法士になるという目標から、具体的な理学療法士像を構築し明確な目標を持つこと。	実習計画 2019年8月19日～2019年8月31日のうち1週間実施
<授業目標(GIO)> 将来理学療法士となる上での資質の向上を図ることを目的としている。資質とは、認知・情意・精神運動の3つの領域における適正と考えている。ただし、今回の実習においては、認知領域および情意領域の向上を図ることとする。	
<行動目標(SBO)> ① 理学療法についてどのように行われているのかを知る。 ② 実習生としての適切な行動を身につける。 ③ 対象者と関わり、理学療法に求められている現実を知る。 ④ 今後の学内教育で行う学習の指標とする。 ⑤ 問題点を把握し、自ら解決できる能力を身につける。 ⑥ 自ら課題を想起し、問題解決方法を身につける。 ⑦ 関連職種の業務内容および関わり方を知る。	
<授業の留意点> 一社会人としての行動に努め、対象者への配慮を怠らないように努めること	
<教科書> 特に定めず	
<参考書> 教科書全般	

成績評価 ・ 実習成績報告書:80%、学校への提出物:20%

科目名			区分	
理学療法セミナー I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

	授業計画		備考
<授業概要> 理学療法士を目指すための心得、社会人としての心得などを学習していく。	1	オリエンテーション	講義
	2	ルールとマナーについて	講義
	3	社会人としての行動	講義
	4	社会人としての行動	講義
<授業目標(GIO)> 理学療法士を目指す学生として、規則(ルール)やマナーを理解し、社会人(医療人)としての資質を身につける。	5	理学療法士とは 理学療法士の学生としての心得	講義
	6	理学療法士とは 理学療法士の学生としての心得	講義
<行動目標(SBO)> 社会の規則(学校内も含む)を守ることができる。 周囲と協調して行動することができる。 報告・連絡・相談ができる。 思いやりのある行動がとれる。 先を予測した行動がとれる。 社会人として必要に応じた行動を選択することができる。	7	理学療法士になる夢に向かって(ディスカッション)	演習
	8	理学療法概論実習に向けて	講義
	9	理学療法概論実習に向けて	講義
	10	理学療法概論実習に向けて	講義
<授業の留意点> 体調管理を徹底し欠席しないこと。 課題は期限までに提出すること。	11	理学療法概論実習に向けての心得(見学の仕方)	演習
	12	理学療法概論実習に向けての心得(ディスカッション)	演習
<教科書> 特になし	13	理学療法概論実習に向けての心得(介助・移動法)	演習
	14	理学療法概論実習に向けての心得(介助・移動法)	演習
<参考書> 必要に応じて提示	15	臨床実習についての心構え	講義
	成績評価		
	課題:50%、演習点:50%		

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
理学療法セミナーⅡ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・1年次の復習をすると共に、2年次の検査・測定実習に必要な知識、技術の習得をしていく。 ・PTとして必要な知識、資質を身につけるべく、適宜講義やディスカッションを取り入れる。 ・チームワーク、協調性を大切に学習に一丸となって取り組む。 <授業目標(GIO)> 1.理学療法士として検査測定を行うために必要なオリエンテーション、技術を修得する。 2.医療人としてふさわしい、身だしなみ、言葉遣い、問題解決行動の修得。 <行動目標(SBO)> ・PTになるという意識を持ち、互いに切磋琢磨して自発的な学習ができる。 ・人に対して医療行為を行うため、それに見合う身だしなみ、言葉遣いを行う。 <授業の留意点> ・遅刻・欠課をしないこと。 ・積極的にかつ真剣に授業参加すること。 ・状況により必要と思われる内容を適宜盛り込む。 <教科書> ・実習ファイル ・1年時PTセミナー1資料 ・検査測定に関わる教材など適宜案内する。 <参考書> 必要時連絡、配布	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	講義・演習
	2	検査測定実習に向けての課題、その他必要と思われる講義・実技演習・実技テストを随時行う。	講義・演習
	3		講義・演習
	4		講義・演習
	5		講義・演習
	6		講義・演習
	7		講義・演習
	8		講義・演習
	9		講義・演習
	10		講義・演習
	11		講義・演習
	12		講義・演習
	13		講義・演習
	14		講義・演習
	15		講義・演習
	成績評価		
	課題提出:100%		

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
理学療法セミナーⅢ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

	授業計画		備考
	1	2	
<授業概要> 臨床実習や国家試験、さらには資格取得後の実務を視野に入れて、専門的知識や技術は基より、倫理、人間関係、関係法規などにも触れながら、臨床場面で求められる総合的視点を養う事を目的とする。	オリエンテーション		
	2	3年生における心構えと個人目標設定	
	3		
	4		
<授業目標(GIO)> テーマや課題に対してグループでの活動を通して総合的視点を高める。	5	理学療法士としての資質・人間性について	グループワーク
	6	理学療法士としての資質・人間性について	グループワーク
<行動目標(SBO)> ・ 1年、2年次に学んだ基本的知識及び技術の振り返りと定着化を図る。 ・ 目の前の課題的事象に対して能動的に働きかけ、気づき、考え、行動する姿勢づくりと対象者意識を養う。	7	理学療法士としての資質・人間性について	グループワーク
	8	理学療法士としての資質・人間性について	グループワーク
	9	仕事とは ～これから求められる医療人(理学療法士)とは～	
	10	仕事とは ～これから求められる医療人(理学療法士)とは～	
	11	仕事とは ～これから求められる医療人(理学療法士)とは～	
<授業の留意点> 各自が自覚と責任を持ち、一つでも多くのことを吸収しようとするひたむきな学習姿勢で臨むこと	12	仕事とは ～これから求められる医療人(理学療法士)とは～	
	13	仕事とは ～これから求められる医療人(理学療法士)とは～	
<教科書・参考書> 必要な場合は各自が持っているものを使用、もしくはプリント等を配布	14	仕事とは ～これから求められる医療人(理学療法士)とは～	
	15	まとめ	
	成績評価		
	演習点：50%、実技実習点：50%		

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
理学療法総論演習Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
1年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 前期に行われた理学療法概論実習の経験をまとめ、発表や意見交換の機会とする。また、実習で見てきた疾患をグループで学習し、プレゼンテーションで発表する。他学年と交流することで次年度以降の目標設定を明確になるよう取り組む。	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 後期の取り組み方について	演習
	2	理学療法概論実習 報告会	演習
<授業目標(GIO)> 発表を通して自分の経験や意見を他者に伝え、また学生の発表や意見交換を通して知識の共有を行うことができる。実習で見てきた疾患の概要についてグループで学習・プレゼンテーションできる。 他学年との交流学习を通じ、上級生の取り組みを学び、今後の学習へ繋げる。	3	理学療法概論実習 報告会	演習
	4	理学療法概論実習 報告会	演習
	5	理学療法概論実習 報告会	演習
	6	グループ学習	演習
	7	グループ学習	演習
	8	グループ学習・プレゼンテーション	演習
<行動目標(SBO)> ・発表のための準備を充分に行うことができる。 ・各自実習の経験を伝達することができる。 ・報告会に積極的な姿勢で参加し、質問することができる。 ・グループ学習に必要な準備ができる。 ・グループ内で各自責任を果たすことができる。 ・伝わりやすいプレゼンテーションができる。	9	グループ学習・プレゼンテーション	演習
	10	検査測定・評価演習	演習
	11	検査測定・評価演習	演習
<授業の留意点> ・授業には積極的な姿勢で参加すること ・各自、目的意識を明確にして取り組むこと。	12	検査測定・評価演習	演習
	13	検査測定・評価演習	演習
	14	検査測定実習 報告会	演習
<教科書> 特になし	15	検査測定実習 報告会	演習
<参考書> 必要に応じて紹介する。	成績評価		
	小テスト:10%、課題:40%、演習点:50%		

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
理学療法総論演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> ・理学療法士となるための知識と技術を演習を通して習得し、さらに他学年との交流にて2学年の課題についてイメージできることで、学習の目標設定を明確にし活動できるように取り組む。	授業計画		備考
<授業目標 (GIO) > ・検査測定実習を通し学んだことや今後の課題を、発表を通しクラスで共有し、その後の学習につなげる。 ・他学年との交流学习を通し、今後の取り組みをイメージし各個人の学習目標につなげる。 <行動目標 (SBO) > ・検査測定の演習では実践だけでなく、その背景の意義や理論まで身につける。 ・検査測定実習報告会では、発表者として相手に伝わるプレゼンテーション(報告書作成や発表方法)を実践し学ぶ。 ・上級生の学習の動き(検査や評価)を積極的に学び今後の学習に生かす。 <授業の留意点> ・理学療法士となるためのより実務的な場面を想定した学習となるため、積極的に参加し1人1人が集中して取り組むこと。 <教科書> ・実習ファイル ・1年時PTセミナーⅠ 資料 ・検査測定に関わる教材など適宜案内する。 <参考書> 適宜案内する。	1	検査測定実習に向けての課題および報告会とその準備、その他必要と思われる講義、演習を適宜行う。	講義・演習
	2		講義・演習
	3		講義・演習
	4		講義・演習
	5		講義・演習
	6		講義・演習
	7		講義・演習
	8		講義・演習
	9		講義・演習
	10		講義・演習
	11		講義・演習
	12		講義・演習
	13		講義・演習
	14		講義・演習
	15	↓	講義・演習
成績評価			
課題提出:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
理学療法総論演習Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> ・ 理学療法士となるための知識と技術について、演習を通して習得し、さらに他学年との交流にて3学年の課題についてイメージできることで学習の目標設定を明確にし活動できるように取り組む。 <授業目標(GIO)> ・ 検査測定実習を通し学んだことや今後の課題を、発表を通しクラスで共有し、その後の学習につなげる。 ・ 他学年との交流学习を通し、今後の取り組みをイメージし各個人の学習目標につなげる。 <行動目標(SBO)> ・ 評価実習に向けた演習では実践だけでなく、その背景の意義や理論まで身につける。 ・ 評価実習報告会では、発表者として相手に伝わるプレゼンテーション(報告書作成や発表方法)を実践し学ぶ。 <授業の留意点> ・ 理学療法士となるためのより実務的な場面を想定した学習となるため、積極的に参加し1人1人が集中して取り組むこと。 <教科書・参考書> 適宜案内する。	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	
	2	評価実習を迎えるにあたり ～実習に対する目的と目標設定～	
	3	接遇・コミュニケーション	
	4	実習レポートについて	
	5	評価実習について ～評価の流れ～	
	6	評価実習について ～評価の流れ～	
	7	評価方法について	実技・演習
	8	評価方法について	実技・演習
	9	評価方法について	実技・演習
	10	評価方法について	実技・演習
	11	評価方法について	実技・演習
	12	評価方法について	実技・演習
	13	評価方法について	実技・演習
	14	評価方法について	実技・演習
	15	まとめ	
成績評価			
演習点：50％、実技実習点：50％			

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
解剖学演習 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 理学療法を学習するうえで重要な人体の構造について1年次に教科書を通して学んできた。 これまで学習した解剖学をより深く理解するために、体表面からの観察、触診しながら、骨全体の機能的構造を学習する。 <授業目標(GIO)> ・正常な人体の形態と構造を理解できる。 ・人体の三次元的な構造を理解する。 <行動目標(SBO)> ・骨の形態的特徴や名称を説明することができる。 ・正確にランドマークが取れる ・骨の形態的特徴から各部分の機能的役割を説明することができる。 ・人体構造の全体的な仕組みを説明することができる。 <授業の留意点> ・グループ標本や模型を使用する。破損、紛失がないよう、充分注意すること。 <教科書> 配布資料 <参考書> 必要に応じて授業中に指示する。	授業計画		備考
	1	骨のランドマークについての骨標本を用いて触診の基本と基礎知識について学習し、演習する。	演習
	2	テキスト・標本を用いて肩甲骨の解剖学的特徴を整理し、肩甲棘・肩峰・内側縁、外側縁、上角、下角と肩甲骨の位置関係について学習し演習する。	演習
	3	テキスト・標本を用いて鎖骨周辺の関節の解剖学的特徴を整理し、鎖骨、胸骨、胸鎖関節、肩鎖関節について学習し演習する。	演習
	4	テキスト・標本を用いて上腕骨の解剖学的特徴を整理し、大結節、小結節、結節間溝、内側上顆、外側上顆について学習し演習する。	演習
	5	テキスト・標本を用いて橈骨と尺骨の解剖学的特徴を整理し、橈骨頭、橈骨茎状突起、尺骨茎状突起について学習し演習する。	演習
	6	テキスト・標本を用いて頭蓋骨・頸椎の解剖学的特徴を整理し、外後頭隆起・乳様突起、上項線、下項線について学習し演習する。	演習
	7	テキスト・標本を用いて頸椎の解剖学的特徴を整理し、頸椎の棘突起(C2、C6、C7)について学習し演習する。	演習
	8	テキスト・標本を用いて腰仙椎の解剖学的特徴を整理し、腰椎の棘突起(L4、L5)、正中仙骨稜について学習し演習する。	演習
	9	テキスト・標本を用いて骨盤の解剖学的特徴を整理し、腸骨稜・ASIS・AIIS・PSIS・仙腸関節・坐骨結節の触診について学習し演習する。	演習
	10	テキスト・標本を用いて大腿骨の解剖学的特徴を整理し、大転子・転子間稜、ローザ・ネルトン線・大腿骨頭・大腿骨内側顆・大腿骨外側顆の触診について学習し、演習する。	演習
	11	テキスト・標本を用いて膝関節の解剖学的特徴を整理し、膝蓋骨・大腿骨膝蓋面・膝列隙・内外側側副靱帯・脛骨粗面の触診について学習し、演習する。	演習
	12	テキスト・標本を用いて下腿の解剖学的特徴を整理し、脛骨内側顆・脛骨外側顆・腓骨頭・内果・外果の触診について学習し、演習する。	演習
	13	テキスト・標本を用いて下腿骨足関節・足部の解剖学的特徴を整理し、距腿関節・足根骨の触診について学習し、演習する。	演習
	14	テキスト・標本を用いて足部の解剖学的特徴を整理し、足指骨の触診について学習し、演習する。	演習
	15	総括:解剖学的知識の必要性、臨床と触診技術の関係性についてその考え方を学習し、人体の三次元的理解の重要性について考察する。	演習
	16	定期試験	
	成績評価		
	実技試験100%		

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
解剖学演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 解剖学演習後期は、人体構造の中でも、筋全般について解剖模型を用い演習を行う。グループ間で、実際に互いの筋を触察する演習を行う。	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> 人体構造を立体的に捉えることができるようになる。 筋の触察方法を身につける。	1	・授業の動向についてのオリエンテーション ・導入として筋の基礎知識と触察の基礎知識・技法について学習し、演習する。	講義・演習
	2	・上肢の触察に必要なとなる骨指標についてテキスト及び骨標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表からの触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	3	・筋の触察「三角筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	4	・筋の触察「棘上筋・棘下筋・(小円筋)」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	5	・筋の触察「大円筋・(肩甲下筋)」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	6	・筋の触察「上腕二頭筋・(烏口腕筋)」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
<行動目標(SBO)> 筋位置関係を把握し、説明することができる。 主要な筋の触察ができるようになる。 グループ間での演習に積極的に参加することが出来る。 触察に応じた配慮を行うことができる。	7	・筋の触察「上腕三頭筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	8	・筋の触察「腕橈骨筋(橈側、尺側手根屈筋・長掌筋)」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	9	・下肢の触察に必要なとなる骨指標についてテキスト及び骨標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表からの触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	10	・筋の触察「大腿四頭筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
<授業の留意点> 講義時間外も触察の練習を行い、修得できるよう努力すること。 触察法は肌を露出するため、臨床現場でも応じた配慮が必要である。そのため、授業は集中し、真面目に取り組むこと。 授業の必要物品の忘れがないようにすること。	11	・筋の触察「大腿筋膜張筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	12	・筋の触察「薄筋・縫工筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
<教科書> 骨格筋の形と触察法 編集:河上敬介 小林邦彦	13	・筋の触察「半腱様筋・半膜様筋・大腿二頭筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	14	・筋の触察「下腿三頭筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
<参考書>	15	・筋の触察「前脛骨筋・長母趾伸筋・長趾伸筋」を中心に、テキスト及び標本を用いてその特徴を理解し、実際に体表の触察をデモンストレーション後に演習し学習する。	講義・演習
	16	定期試験	
	成績評価		
・ 定期試験(実技試験80%)			
・ 実技実習点(20%)			

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
臨床動作分析学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	場所(予定)
<授業概要> ・ ヒトが動くためのメカニズムを学び、異常動作を引き起こす原因となる逸脱動作とその代償動作を、動作分析を実践する中で導き出し考察する。 ・ 異常動作の原因を追究するための臨床評価を学ぶ。 ・ 症例の動画より動作分析を実践し、動作分析症例検討会の中で専門的用語を用いた表現や分析結果の解釈を共通にして全員で理解を深める。	<授業目標(GIO)> ・ 動作のメカニズムを理解する。 ・ 正常動作パターンを理解し、動作を阻害する逸脱動作や代償動作に気付くことができる。 ・ 代表的異常動作のメカニズムを説明できる。	1 「動作分析学総論」動作分析とはどのようなことかを講義を通し学習する。	教室
		2 「運動力学の基礎」重心、床反力、関節モーメントなどについて講義を通し学習する。	教室
		3 「動作計測の実際」3次元動作解析装置について、講義及び演習を通し学習する。	評価室/機能回復訓練室
<行動目標(SBO)> ・ 正常動作のメカニズムを理解するために、動作を実際に確認しながら学ぶ。必要に応じて動作解析装置などの利用も行う。 ・ グループ学習を通して、症例の異常動作を分析し、その考察までを発表する。その際、各個人が役割を持ちその分析結果に関わる疾患の内容も含め学習する。 ・ 発表会では全員で各疾患の分析を追究する。	<授業の留意点> ・ 授業には各人が積極的に参加し考えること。 ・ 解剖学、運動学、その他疾患の学習をしておく。 ・ 動作の現象を適切な専門用語を用い説明できる。 ・ 理解不足である点を放置しない。	4 「動作計測の実際」3次元動作解析装置について、講義及び演習を通し学習する。	評価室/機能回復訓練室
		5 「姿勢制御のバイオメカニクス」姿勢制御について講義及び演習を通し学習する。	教室
		6 「姿勢アライメントの評価」臨床現場における様々な姿勢評価を講義及び演習を通し学習する。	治療室
<教科書> ・ 観察による歩行分析 ・ 動作分析臨床活用講座 ・ 症例動作分析	<参考書> ・ 基礎運動学 第6版 ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	7 「姿勢アライメントの評価」臨床現場における様々な姿勢評価を講義及び演習を通し学習する。	治療室
		8 「臨床における動作分析の方法と概要」臨床現場における動作分析の実際の手順を講義及び演習を通し学習する。	教室
		9 「寝返り・起き上がり」正常動作の復習・確認を講義及び演習を通し学習する。	治療室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	10 「寝返り・起き上がり」異常動作の原因とパターンを講義及び演習を通し学習する。	治療室
		11 「寝返り・起き上がり」症例動画を使用し分析をする。(演習)	治療室
		12 「起立・着座」正常動作の復習・確認を講義及び演習を通し学習する。	治療室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	13 「起立・着座」異常動作の原因とパターンを講義及び演習を通し学習する。	治療室
		14 「起立・着座」症例動画を使用し分析をする。(演習)	治療室
		15 「正常歩行」基礎知識の復習・確認を講義及び演習を通し学習する。	治療室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	16 「正常歩行」基礎知識の復習・確認を講義及び演習を通し学習する。	治療室
		17 「異常歩行～運動器疾患～」代表的逸脱・代償動作及びその原因を講義及び演習を通し学習する。	治療室
		18 「異常歩行～運動器疾患～」代表的逸脱・代償動作及びその原因を講義及び演習を通し学習する。	治療室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	19 「異常歩行～神経疾患～」代表的逸脱・代償動作及びその原因を講義及び演習を通し学習する。	治療室
		20 「異常歩行～神経疾患～」代表的逸脱・代償動作及びその原因を講義及び演習を通し学習する。	治療室
		21 「異常動作分析」症例課題について個人レベルで分析を行う。(演習)	教室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	22 「異常動作分析」症例課題について個人レベルで分析を行う。(演習)	教室
		23 「異常動作分析」症例課題についてグループで学びを共有し学習する。	教室
		24 「異常動作分析」症例課題についてグループで学びを共有し学習する。	教室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	25 「臨床動作分析検討会」症例課題をまとめた内容についてグループ発表会を行い分析の視点を共有し学習する。	発表会(講堂)
		26 「臨床動作分析検討会」症例課題をまとめた内容についてグループ発表会を行い分析の視点を共有し学習する。	発表会(講堂)
		27 「臨床動作分析検討会」症例課題をまとめた内容についてグループ発表会を行い分析の視点を共有し学習する。	発表会(講堂)
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	28 「臨床動作分析検討会」症例課題をまとめた内容についてグループ発表会を行い分析の視点を共有し学習する。	発表会(講堂)
		29 これまでの症例課題を振り返り、再確認の必要な内容について講義を通し学習する。また臨床で必要な動作評価について演習を通し学習する。	教室
		30 これまでの症例課題を振り返り、再確認の必要な内容について講義を通し学習する。また臨床で必要な動作評価について演習を通し学習する。	教室
<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	<参考書> ・ 結果の出せる整形外科理学療法 ・ 測定と評価 ・ 臨床実践 動きのとらえかた ・ 姿勢アセスメント ・ PT症例レポート ・ 歩行分析トレーニングブック ・ The Center of the Body ・ 歩行分析ワークブック ・ 介護にかかすバイオメカニクス その他…	31 定期試験	講堂
		成績評価	
		定期試験:80% 課題レポート、発表:20%	

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
理学療法研究法Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 理学療法遂行上の問題解決能力の向上のための一手法としての手段を学ぶ <授業目標(GIO)> 理学療法に関する疑問点から研究テーマを立て研究計画書を作成することができる。 <行動目標(SBO)> ・必要な文献を収集できる。 ・予備実験を行い、適切な修正ができる。 ・研究のテーマを発見し研究計画書を作成できる。 ・第三者に的確に説明できる。 <授業の留意点> グループワークが中心となる。 全員が協力し遂行するように。 <教科書> はじめての研究法 第2版 千住秀明他著 神陵文庫 (その他)資料を教員が用意する <参考書> 特になし	授業計画		備考
	1	研究の必要性和研究過程のモデルについて学習する。	講義
	2	文献の見方・収集法について学習し演習する。	講義・演習
	3	研究の元となる課題の見つけ方について学習し演習する。	講義・演習
	4	研究課題の展開について学習し演習する。	講義・演習
	5	研究計画書作成について(タイトル・はじめに)学習し演習する。	講義・演習
	6	研究計画書作成について(目的)学習し演習する。	講義・演習
	7	研究計画書作成について(研究意義)学習し演習する。	講義・演習
	8	研究計画書作成について(対象・倫理的配慮)学習し演習する。	講義・演習
	9	研究計画書作成について(方法)学習し演習する。	講義・演習
	10	研究計画書作成について(予測される結果と考察)学習し演習する。	講義・演習
	11	仮研究を行い事前準備の必要性を学ぶ。	演習
	12	仮研究を行い事前準備の必要性を学ぶ。	演習
	13	仮研究を行い事前準備の必要性を学ぶ。	演習
	14	研究計画書発表会を通して研究計画の重要性を学ぶ。	演習
	15	研究計画書発表会を通して研究計画の重要性を学ぶ。	演習
成績評価			
研究計画書発表点:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
理学療法研究法Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 理学療法遂行上の問題解決能力の向上のための一手法としての手段を学ぶ <授業目標(GIO)> 研究計画書作成から実験研究を通し結果を導くまでの一連の研究ができる。得られた結果から原因を考察することができる。 <行動目標(SBO)> ・研究計画書通りに研究を遂行できる。 ・必要な統計手法を用いることができる。 ・得られた結果を文献と比較できる。 ・結果の原因を考察できる。 ・一連の研究内容を第三者への的確に説明できる。 <授業の留意点> グループワークが中心となる。 全員が協力し遂行するように。 <教科書> はじめての研究法 第2版 千住秀明他著 神陵文庫 (その他)資料を教員が用意する <参考書>	授業計画		備考
	1	研究データの管理方法について学び演習する。 データ記録用紙の作成のポイントについて学び演習する。	講義 演習
	2	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	3	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	4	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	5	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	6	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	7	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	8	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	9	グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。	講義 演習
	10	抄録の作成法について学ぶ。	講義
	11	抄録の作成法について学び演習する。	演習
	12	発表スライドの作成法について学ぶ。	講義
	13	発表スライドの作成法について学び演習する。	演習
	14	理学療法研究発表会を通して研究の重要性を学ぶ。	演習
	15	理学療法研究発表会を通して研究の重要性を学ぶ。	演習
成績評価			
理学療法研究発表点:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
理学療法評価学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 本授業では、理学療法評価総論～各検査を講義、演習にて進めていく。評価は対象者を把握する上で、理学療法にとって重要な位置付けであり、2年次の検査測定実習だけでなく、その後の3年時・4年次の疾患別理学療法や各実習へ繋がっていくため、2年次においては中心となる科目である。	授業計画 1 オリエンテーションを実施しシラバスを使用した授業内容の説明で今後の授業の方向性を理解してもらう。 講義 2 評価についての意義目的、評価の過程、およびICIDH、ICFに基いた評価について学習する。 講義 3 評価の種類、記録の取り方、医療情報の種類と情報収集の取り方、検査尺度と定性定量について学習する。 講義 4 形態測定の意義目的および形態測定の種類、実施時における注意事項を学習し、演習にて身長体重の測定を行い、栄養状態と体 講義・演習 5 四肢長の種類と各四肢長の計測点を覚え、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を取得する。 講義・演習 6 四肢周計の種類と各四肢周計の計測点を覚え、演習によりメジャーの使い方と実際の計り方を習得する。 講義・演習 7 関節可動域測定の定義と目的、身体の基本的肢位と基本的運動方向、測定器具の取扱いを演習にて学習し、測定上の注意事項を 講義・演習 8 関節可動域測定における肩甲骨の機能解剖を確認し、演習において肩甲骨の動きとその計測法を学習する。 講義・演習 9 関節可動域測定における肩関節、肘関節の測定方法を理解し、演習にて計測点と運動方向の確認を行い参考可動域を確認する。 講義・演習 10 関節可動域測定における前腕、手関節の測定方法を理解し、演習にて計測点と運動方向の確認を行い参考可動域の確認を理解す 講義・演習 11 関節可動域測定における股関節の測定方法を理解し、演習にて計測点と運動方向の確認を行い参考可動域を確認する。 講義・演習 12 関節可動域測定における膝関節・足関節の測定方法を理解し、演習にて計測点と運動方向の確認を行い参考可動域の確認を理解 講義・演習 13 関節可動域測定における頸部・体幹の測定方法を理解し、演習にて計測点と運動方向の確認を行い参考可動域を確認する。 講義・演習 14 関節可動域測定のまとめで総合的な復習を行い、関節可動域測定の全体的な方法と注意点を理解を深める。 講義・演習 15 反射検査の定義と反射弓および反射の種類、反射出現の生理学的機序を演習を交えて学習する。 講義・演習 16 深部腱反射での検査器具の説明と各反射検査の方法を学習し、演習にて各深部腱反射の叩打部位と反射表出を覚える。 講義・演習 17 表在反射での検査器具の説明と各反射検査の方法を学習し、演習にて各表在反射の刺激入力部位と反射表出を覚える。 講義・演習 18 病的反射での検査器具の説明と各反射検査の方法を学習し、演習にて各病的反射の刺激入力部位と反射表出を覚える。 講義・演習 19 感覚検査の意義定義と検査の目的を理解し、知覚の分類、感覚の伝導路(解剖・生理)を学習する。 講義・演習 20 表在感覚検査で使用する検査器具を覚え、感覚入力の入れ方、疾患に応じたoutputの確認を学習する 講義・演習 21 深部感覚検査で使用する検査器具を覚え、感覚入力の入れ方、疾患に応じたoutputの確認を学習する 講義・演習 22 複合感覚検査で使用する検査器具を覚え、感覚入力の入れ方、疾患に応じたoutputの確認を学習する 講義・演習 23 痛みの検査について痛みの分類(急性痛、慢性痛、一次痛、二次痛)、検査を行なう上での臨床上の注意、痛みの検査手順を学習する。 講義・演習 24 各種痛みの評価法であるvisual anaog scale・NRSを演習を通して学習する。 講義・演習 25 疼痛検査の手順を理解し、演習にて問診による痛みの評価、痛み検査を学習する。 講義・演習 26 協調性検査の意義目的を理解し、運動失調を呈する疾患および分類と小脳性失調と有髄性失調の鑑別を学習する。 講義・演習 27 協調性検査の代表的な指鼻試験・鼻指鼻試験・膝踵試験を演習にて学習し、検査測定実施時の注意事項を覚える 講義・演習 28 各検査法の導入から問診への進め方をDVD視聴により学習し、演習を通して理解を深める。 講義・演習 29 各検査法の導入から問診への進め方をDVD視聴により学習し、演習を通して理解を深める。 講義・演習 30 各検査法の導入から問診への進め方をDVD視聴により学習し、演習を通して理解を深める。 講義・演習 31 定期試験	備考
<授業目標(GIO)> 評価とは何かを理解し、一つ一つの検査の意義・目的および検査方法を理解し、正確に説明できる。また、各検査の関連性を理解できる。		
<行動目標(SBO)> ・解剖学、生理学を再度見直し、速やかに理解できるよう努める。 ・正確に検査が実施できるようになる。 ・徹底的に練習する。 ・検査結果が何を意味しているか考える。 ・他の検査との関連性を考える。		
<授業の留意点> ・欠席しない。 ・積極的に被験者となること。 ・予習復習を行うこと。 ・授業以外でも積極的に練習すること。		
<教科書> ・理学療法評価学（金原出版） ・ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）		
<参考書> ・プロメテウス解剖学アトラス(医学書院) ・基礎運動学(医歯薬出版) その他、適宜紹介		

成績評価 ※1 筆記試験:80%、実技テスト:20% ※2 筆記試験100%

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
理学療法評価学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 本授業では、理学療法評価総論～各検査を講義、演習を同時進行にて進めていく。理学療法を行う上で評価は重要な位置付けであり、検査実習のみではなく、3年時に履修する疾患別理学療法、評価実習へと繋がっていくため、各検査間の関連も含めて講義を進める。 <授業目標(GIO)> 評価とは何かを理解し、一つ一つの検査の意義・目的を理解し、正確に説明できる。また、各検査の関連を理解する。 <行動目標(SBO)> - 解剖学、生理学を再度見直し、速やかに理解できるよう努める。 - 正確に検査が実施できるようになる。 - 徹底的に練習する。 - 検査結果が何を意味しているか考える。 - 他の検査との関連性を考える。 <授業の留意点> - 欠席しない。 - 積極的に被験者となること。 - 予習復習を行うこと。 - 授業以外でも積極的に練習すること。 <教科書> - 新徒手筋力検査法 (協同医書出版社) - 理学療法評価法 (神陵文庫) - ベッドサイドの神経の診かた(南山堂) <参考書>	授業計画		備考
	1	オリエンテーション:MMTの成り立ちや歴史について学習する。	講義
	2	MMT総論:原理、段階づけについて学習し基本的な考え方とMMTの方法について演習する	講義・演習
	3	MMT 総論(代償運動、妥当性と限界)	講義・演習
	4	MMT各論:肩甲骨帯のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	5	MMT各論:肩甲骨帯のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	6	MMT各論:肩関節のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	7	MMT各論:肩関節のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	8	MMT各論:肘関節・前腕のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	9	MMT各論:股関節のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	10	MMT各論:股関節のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	11	MMT各論:膝関節のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	12	MMT各論:足関節のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	13	MMT各論:頭部・頸部のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	14	MMT各論:体幹のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	15	MMT各論:手指・足趾のMMTについて学習し演習する。	講義・演習
	16	片麻痺機能検査について、片麻痺の理解を深め、検査の意義・目的について学習する。	講義
	17	片麻痺機能検査について学習し、演習する。	講義・演習
	18	片麻痺機能検査について学習し、演習する。	講義・演習
	19	筋緊張異常について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。	講義
	20	筋緊張検査(検査方法・Ashworthscale)について学習し、演習する。	講義・演習
	21	脳神経障害について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。	講義
	22	脳神経検査の方法について学習し、演習する。	講義・演習
	23	高次脳機能検査について責任病巣と症状を理解し、学習する。	講義
	24	高次脳機能検査の方法について学習し、演習する。	講義・演習
	25	検査を学生同士で系統的に演習し、理解を深め、技術と高める	演習
	26	検査を学生同士で系統的に演習し、理解を深め、技術と高める	演習
	27	検査を学生同士で系統的に演習し、理解を深め、技術と高める	演習
	28	検査を学生同士で系統的に演習し、理解を深め、技術と高める	演習
	29	検査を学生同士で系統的に演習し、理解を深め、技術と高める	演習
	30	検査を学生同士で系統的に演習し、理解を深め、技術と高める	演習
	31	定期試験	
成績評価			
定期試験:80%、実技試験:20%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
理学療法評価学演習			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 本授業では、一連の理学療法評価の中で、患者を受け持ってから検査項目を抽出するところまでの流れを演習する。思考過程を構築することで、それぞれ検査測定目的を理解し、治療へ繋がる問題点を導き出すための重要な土台となる。	<table><tr><th colspan="2">授業計画</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション① 理学療法評価におけるボトムアップとトップダウン、理学療法評価の根拠について、多角的に捉える視点を学習し、演習する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>2</td><td>オリエンテーション② 考え方のポイント、ロジックツリーの作り方デモ症例にて演習する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>3</td><td>整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>4</td><td>整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>5</td><td>疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。</td><td>演習</td></tr><tr><td>6</td><td>疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。</td><td>演習</td></tr><tr><td>7</td><td>各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>8</td><td>各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>9</td><td>中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>10</td><td>中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>11</td><td>疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。</td><td>演習</td></tr><tr><td>12</td><td>疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。</td><td>演習</td></tr><tr><td>13</td><td>各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>14</td><td>各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。</td><td>演習</td></tr><tr><td>15</td><td>理学療法評価学演習で学習したことをまとめ、ロジックツリーの修正、質疑を通して理解を深める。</td><td>演習</td></tr><tr><td>16</td><td colspan="2">定期試験</td></tr><tr><td colspan="3">成績評価</td></tr><tr><td colspan="3">定期試験:80%、課題提出:20%</td></tr></table>	授業計画		備考	1	オリエンテーション① 理学療法評価におけるボトムアップとトップダウン、理学療法評価の根拠について、多角的に捉える視点を学習し、演習する。	演習	2	オリエンテーション② 考え方のポイント、ロジックツリーの作り方デモ症例にて演習する。	演習	3	整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習	4	整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習	5	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習	6	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習	7	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習	8	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習	9	中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習	10	中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習	11	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習	12	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習	13	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習	14	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習	15	理学療法評価学演習で学習したことをまとめ、ロジックツリーの修正、質疑を通して理解を深める。	演習	16	定期試験		成績評価			定期試験:80%、課題提出:20%		
授業計画		備考																																																								
1	オリエンテーション① 理学療法評価におけるボトムアップとトップダウン、理学療法評価の根拠について、多角的に捉える視点を学習し、演習する。	演習																																																								
2	オリエンテーション② 考え方のポイント、ロジックツリーの作り方デモ症例にて演習する。	演習																																																								
3	整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習																																																								
4	整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習																																																								
5	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習																																																								
6	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習																																																								
7	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習																																																								
8	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習																																																								
9	中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習																																																								
10	中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。	演習																																																								
11	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習																																																								
12	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。	演習																																																								
13	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習																																																								
14	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。	演習																																																								
15	理学療法評価学演習で学習したことをまとめ、ロジックツリーの修正、質疑を通して理解を深める。	演習																																																								
16	定期試験																																																									
成績評価																																																										
定期試験:80%、課題提出:20%																																																										
<授業目標(GIO)> 初期情報から、病態やリスク、疾患の特徴を把握し、検査項目を選定することができる。また、評価時のリスクを考慮することができる。																																																										
<行動目標(SBO)> ・一つ一つの検査の意義・目的を理解し、理由を説明できる。 ・探究心を持って深く理解するよう努めること。 ・積極的に発言すること																																																										
<授業の留意点> ・能動的に学習すること																																																										
<教科書>																																																										
<参考書> ・理学療法ハンドブック 1～4巻(協同医書) ・理学療法評価法 (神陵文庫) ・ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) など必要なものを各自用意すること																																																										

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

科目名			区分	
画像評価学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1) 非常勤講師(※2) 非常勤講師(※3)

<授業概要> 臨床現場で行われている、X線写真 CT MRI 超音波画像の基本的な原理、画像の成り立ちを理解する。 教科書の理解、パワーポイントでの各疾患の画像の見え方を理解する。 解剖学的位置と画像上での位置関係を理解する。 <授業目標(GIO)> 各モダリティの画像の見方を理解し、画像所見による疾患の影響による機能的、能力的予後を予測しリハビリテーション計画に反映させられることを目標とする。 <行動目標(SBO)> ・放射線検査における被ばくの理解。 ・画像の上下左右をきちんと認識できる。 ・モダリティ別画像の区別が可能。 ・各モダリティの特徴、検査目的を理解できる。 ・X線写真で骨折部位が認識できる。 ・CT画像の解剖学的位置を理解できる ・冠状断・矢状断・水平断の理解 ・CTでの頭部出血、梗塞を理解できる。 ・MRI画像での梗塞出血を理解できる。 <授業の留意点> 基本的に教科書に添って行うがパワーポイント等を使用する場合があるので、重要事項は必ずノートをとること 欠席が3回を超えた場合はレポートの提出を行う。講義中に積極的に質問を行った場合は加点をあたえる。 <教科書> ・PT・OTのための画像診断マニュアル ・PT・OTのための画像のみかた <参考書> PT・OTのための画像診断マニュアル 医学教育出版	授業計画		備考
	1	現在の画像検査の実際	
	2	放射線検査の基本	
	3	画像解剖学 画像の見えかた	
	4	CT検査 画像の基本	
	5	CT検査 基本的画像	
	6	CT検査 特徴的疾患画像	
	7	臨床とCT画像	
	8	MRI検査 画像の基本	
	9	MRI検査 基本的画像	
	10	MRI検査 特徴的疾患画像	
	11	臨床とMRI画像	
	12	頭部の疾患	
	13	四肢の疾患	
	14	脊椎 脊髄の疾患	
	15	胸部 腹部の疾患 まとめ 質問対応	
16	定期試験		
成績評価			
定期試験100%			

※1 診療放射線技師として病院で実務経験31年以上

※2 診療放射線技師として病院で実務経験10年以上

※3 診療放射線技師として病院で実務経験17年以上

科目名			区分	
検査・測定実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	90 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者

<授業概要> 2週間の実習を通して、学内で学んだ検査・測定の技術と知識を、実習指導者のもとにおいて体験する。 <授業目標 (GIO) > 実習指導者のもとで、実際の対象者に検査・測定を実施させていただくことによって、机上で学んできた内容をより一層理解し深めていくことができる。臨床における検査・測定の実施を体験し、対象者の機能的状態を把握することで、理学療法士としての疾患に対する概念や理解の向上を図る。 理学療法士の役割を学び、他部門との関係を理解することで、次年度以降の評価実習に向けてさらに発展性を持たせる事を目的とする。 <行動目標 (SBO) > - 臨床における検査・測定の実施を体験する。 - 対象者の機能的状態を把握し、必要となる評価を知る。 - 評価の一助となる、情報収集の方法を体験習得する。 - 可能であれば各評価法についても実施を体験する。 - 理学療法士としての役割と他部門との関係を理解する。 - 理学療法士としての責任と自覚を学ぶ。 - 対象者や実習施設に感謝し、対象者への接遇を学ぶ。 <教科書> <参考書>	実習計画 2019年12月2日～2019年12月14日の2週間実施
	成績評価 検査測定実習成績表:80%、 報告書の提出物及び発表:20%

科目名			区分	
運動療法Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	60 (2)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

＜授業概要＞		授業計画		備考			
・運動療法は理学療法士における中核的な治療手段である。本講義では、臨床実習や資格取得後の実務を視野に入れて、身体における様々な諸問題（症候・障害）を理解し、その解決に必要な運動とその関わりについて学ぶ。	・学んだことはグループ間で共有し、知識の定着ならびに思考の形成を図る。	1	リハビリテーションにおける理学療法士の役割とその治療対象について学習する	講義			
		2	運動療法で使用する物品および機器について学習する	講義			
		3	関節の基本構造と臨床での諸問題について学習する	講義			
＜授業目標（GIO）＞	理学療法における運動療法の本質的役割を理解し、臨床実習や資格取得後の実務に繋がる基本的知識と技術を身につける。	4	関節内運動および関節運動と身体肢位の関係について学習する	講義			
		5	上肢における基本的な関節可動域運動を演習する	演習			
		6	下肢における基本的な関節可動域運動を演習する	演習			
		7	症例に対する関節可動域改善を目的としたアプローチを検討し演習する	演習			
		8	筋力増強に必要な周辺知識（筋張力と筋持久力の違い、筋の収縮様式など）を学習する	講義			
		9	筋力増強に必要な周辺知識（特性・原則など）を学習する	講義			
		10	上肢における基本的な筋力増強運動を演習する	演習			
		11	下肢における基本的な筋力増強運動を演習する	演習			
		12	症例に対する筋力増強を目的としたアプローチを検討し演習する	演習			
		＜行動目標（SBO）＞	①運動療法の歴史的背景とともに、その定義と目的が理解できる。 ②対象となる身体の諸問題（症候及び障害）を理解し、対応すべき運動療法について講じることができる。 ③運動療法の基礎理論と基本技術について模倣と併せて説明することができる。	13	バランスの定義や力学的解釈を理解しバランスに影響する因子を学習する	講義	
				14	バランスに関係する身体要素について学習する	講義	
				15	身体におけるバランス戦略と基本的なバランスエクササイズを演習する	演習	
16	症例に対するバランス改善を目的としたアプローチを検討し演習する			演習			
17	協調性獲得に必要な運動制御とその神経機構について学習する			講義			
18	協調性改善に求められる原則的な関わり方と留意点を学習する			講義			
19	運動学習の基本と協調性改善のための関わりについて学習する			講義			
20	症例に対する協調性改善を目的としたアプローチを検討し演習する			演習			
＜授業の留意点＞	・常に問題解決の意識を持って臨み、3次元でのイメージづくりに励み、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。 ・受講に際しては、相応しい服装（実習服・靴の着用）・身だしなみ及び態度で臨むこと。 ・提出物や作成物等の提出については、必ず期限を守ること。 ・グループでの学習活動に際しては、協調ある姿勢で臨み、属する班員全員が相互的理解に努めること。			21	加齢に伴う様々な諸問題を学習する	講義	
				22	加齢に伴う身体症候の特徴とその関わり方について学習する	講義	
				23	高齢者の身体症候改善に対するアプローチを検討し演習する	演習	
				24	循環器障害の障害像を理解し運動療法と実施上のリスク管理を学習する	講義	
		25	症例に対する循環器機能改善を目的としたアプローチを検討し演習する	演習			
		26	呼吸器障害の障害像を理解し運動療法と実施上のリスク管理を学習する	講義			
		27	症例に対する呼吸器機能改善を目的としたアプローチの検討し演習する	演習			
		＜教科書＞	・『理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学』柳澤 健（編）メジカルビュー社 ・『最新 運動療法大全Ⅰ基礎編（第6版）』キャロリン・キスナー他 ガイアブックス ・講義プリント及び配布資料（文献）等	28	代謝障害の障害像を理解し運動療法と実施上のリスク管理を学習する	講義	
				29	症例に対する代謝機能改善を目的としたアプローチを検討し演習する	演習	
				30	項目毎に理解のポイントを解説し質疑応答を通して本講義の振り返りを行なう	講義	
				31	定期試験		
				成績評価			
筆記試験：80％、レポート：20％							
＜参考書＞	・『機能障害科学入門』千住秀明（監）神校文庫 ※機能障害学の教科書 ・『理学療法ハンドブック 改訂第4版』第1～4巻 細田多穂、柳澤健（編）協同医学出版社						

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
運動療法Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 運動療法は理学療法士における中核的な治療手段である。本講義では、臨床実習や資格取得後の実務を視野に入れて、身体運動に関わる主たる器官機能の改善を目的とした実践的アプローチを中心に学ぶ。	授業計画		備考
	1	疼痛の定義と存在意義・急性痛と慢性痛・疼痛の伝達・抑制機構について学習する	講義
	2	疼痛の分類・疼痛が身体に与える影響・運動療法実施上の留意点について学習する	講義
	3	筋硬結やトリガーポイントの発生および形成メカニズムを学習する	講義
	4	筋スパズムと筋短縮について学習する	講義
	5	筋病変の鑑別方法について学び演習する	講義・演習
	6	筋病変に対する治療操作と実施上の留意点を学び演習する	講義・演習
	7	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	8	軟部組織モビライゼーションについて学び演習する	講義・演習
<授業目標(GIO)> 身体における主たる器官機能を理解し、改善に必要となる実践的技術を身につける。	9	軟部組織モビライゼーションについて学び演習する	講義・演習
	10	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	11	筋伸張運動(muscle stretching Ex.)について学習する	講義
<行動目標(SBO)> ①器官の構造的特徴と生理的機能が理解できる。 ②各アプローチの必要性とともに目的・意義を説明することができる。 ③アプローチの基礎理論を学び、模倣と併せてその概要を説明することができる。	12	上肢および下肢を中心とした筋伸張運動について検討し演習する	演習
	13	上肢を中心とした筋伸張運動について演習する	演習
	14	下肢を中心とした筋伸張運動について演習する	演習
	15	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	16	関節内運動(Joint Play)における操作について演習する	講義・演習
	17	関節モビライゼーション(Joint Mobilization)について学習する	講義
	18	関節モビライゼーション(上肢)について学び演習する	演習
	19	関節モビライゼーション(下肢)について学び演習する	演習
	20	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	21	関節機能障害(Joint Dysfunction)について学習する	講義
<授業の留意点> ・常に問題解決的意識を持って臨み、3次元でのイメージづくりに励み、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。 ・受講に際しては、相応しい服装(実習服・靴の着用)・身だしなみ及び態度で臨むこと。 ・提出物や作成物等の提出については、必ず期限を守ること。 ・グループでの学習活動に際しては、協調ある姿勢で臨み、属する班員全員が相互的理解に努めること。	22	体幹の関節機能障害に対する治療について演習する	演習
	23	上肢および下肢の関節機能障害に対する治療について演習する	演習
	24	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	25	体操(ウィリアムズ、マッケンジー、クラウド・ウェーバー、ペーラー、クラブ)について学習する	講義
	26	体操(コッドマン、フレネル、骨盤底筋、バージャー・アレン)について学習する	講義
	27	認知神経科学に基づく運動療法アプローチの基本的理論を学習する	講義
	28	認知神経科学に基づく運動療法アプローチの方法論と留意点を学び演習する	講義・演習
<教科書> ・『理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学』柳澤 健(編) メジカルビュー社 ・『最新 運動療法大全 I 基礎編(第6版)』キャロリン・キスナー他 ガイアブックス ・講義プリント及び配布資料(文献) 等	29	認知神経科学に基づく運動療法アプローチの方法論と留意点を学び演習する	講義・演習
	30	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	31	定期試験	
<参考書> ・『機能障害科学入門』千住秀明(監) 神農文庫 ・『理学療法ハンドブック 改訂第4版』第2巻 細田多穂、柳澤健(編) 協同医学出版社 ・解剖学の教科書 等	成績評価		
	筆記試験：80%、レポート：20%		

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士としてリハビリテーション病院(中枢・神経系、整形外科)で実務経験14年以上

科目名			区分	
運動器理学療法 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 整形外科理学療法上必要な知識の習得 1. 人体構造・生体機能・身体運動システムに関する知識・理解の展開 2. 身体徴候・機能診断に関する知識・理解の展開 3. 理学療法技術に関する知識・理解の展開 4. 整形外科・理学療法に関する知識・理解の展開 5. 保健・社会医療システムに関する知識・理解の展開		1 変形性膝関節症(保存療法)の疾患の概要について学習する。	講義
		2 変形性膝関節症(保存療法)に対する評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	演習
		3 変形性膝関節症(保存療法)に対する理学療法(可動域運動・筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		4 人工膝関節全置換術の術式について学習する。	講義
<授業目標(GIO)> 実践的能力・技能を身につける 1. 理学療法に関係する情報を収集・評価できる。 2. 代表的な整形外科疾患の身体機能・生体反応の測定評価ができる。 3. 理学療法の基本的手技が実行できる。 4. 医療・保健福祉・理学療法の問題に対する積極的態度をとることができる。		5 人工膝関節全置換術後の評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	演習
		6 人工膝関節全置換術後の理学療法(可動域運動・筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		7 大腿骨頸部骨折について学習する。	講義
		8 急性期における人工股関節全置換術後の評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	演習
<行動目標(SBO)> ・解剖学・生理学を再度見直すこと。 ・授業内容を速やかに理解できるよう予習に努め、自主的に学習できること。		9 急性期における人工股関節全置換術後の理学療法(可動域運動)について学習し演習する。	演習
		10 急性期における人工股関節全置換術後の理学療法(筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		11 回復期における人工股関節全置換術後の評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	演習
		12 回復期における人工股関節全置換術後の理学療法(可動域運動)について学習し演習する。	演習
<授業の留意点> ・予習を習慣化すること。 ・意欲的に取り組むこと。 ・授業以外でも積極的に練習すること。		13 回復期における人工股関節全置換術後の理学療法(筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		14 維持期における人工股関節全置換術後の評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	演習
		15 維持期における人工股関節全置換術後の理学療法(可動域運動・筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		16 定期試験	
<教科書> ・最新 運動療法大全 I 基礎編 第6版 ・最新 運動療法大全 II 実践編 第6版		成績評価	
		定期試験:70%、小テスト:30%	
<参考書> ・カバンディー関節の生理学(医歯薬) ・運動器リハビリテーションの機能評価(エルゼビアジャパン) ・標準整形外科学(医学書院) ・結果の出せる整形外科理学療法(メジカルビュー) ・標準理学療法学 運動療法学 各論(医学書院)			

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
運動器理学療法Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 整形外科理学療法上必要な知識の習得 1. 人体構造・生体機能・身体運動システムに関する知識・理解の展開 2. 身体徴候・機能診断に関する知識・理解の展開 3. 理学療法技術に関する知識・理解の展開 4. 整形外科・理学療法に関する知識・理解の展開 5. 保健・社会医療システムに関する知識・理解の展開		1 肩関節周囲炎の概要について学習する。	講義
		2 肩関節周囲炎に対する評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	演習
		3 肩関節周囲炎に対する理学療法(可動域運動)について学習し演習する。	演習
		4 肩関節疾患に対する理学療法(筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
<授業目標(GIO)> 実践的能力・技能を身につける 1. 理学療法に関係する情報を収集・評価できる。 2. 代表的な整形外科疾患の身体機能・生体反応の測定評価ができる。 3. 理学療法の基本的手技が実行できる。 4. 医療・保健福祉・理学療法の問題に対する積極的態度をとることができる。		5 腱板断裂の概要について学習する。腱板断裂に対する評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査など)について学習し演習する。	講義・演習
		6 腱板断裂に対する理学療法(可動域運動・筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		7 腰痛に対する評価(問診・視診・触診・関節可動域検査・徒手筋力検査)について学習し演習する。	演習
		8 腰痛に対する評価(感覚検査・疼痛検査・各種反射検査)について学習し演習する。	演習
<行動目標(SBO)> ・解剖学・生理学を再度見直すこと。 ・授業内容を速やかに理解できるよう予習に努め、自主的に学習できること。		9 腰痛に対する理学療法(ストレッチ・姿勢矯正運動)について学習し演習する。	演習
		10 腰痛に対する理学療法(マニピュレーション・ADLトレーニング・物理療法)について学習し演習する。	演習
		11 リウマチに対する評価(問診・視診・触診・可動域検査・筋力検査など)と理学療法(可動域運動・筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
		12 胸郭出口症候群に対する評価(問診・視診・触診・可動域検査・筋力検査など)と理学療法(可動域運動・筋力トレーニングなど)について学習し演習する。	演習
<授業の留意点> ・予習を習慣化すること。 ・意欲的に取り組むこと。 ・授業以外でも積極的に練習すること。		13 整形外科テスト(ヤーガソンテスト・ドロップアームテスト・肩不安定テストなど)について学習し演習する。	演習
		14 整形外科テストについて(SLRテスト・ブラガード徴候・ケンプテストなど)について学習し演習する。	演習
		15 整形外科テストについて(マックマレーテスト・前方引き出しテスト・外反ストレステストなど)について学習し演習する。	演習
		16 定期試験	
<教科書> ・最新 運動療法大全 I 基礎編 第6版 ・最新 運動療法大全 II 実践編 第6版		成績評価	
		定期試験:70%、小テスト:30%	
<参考書> ・カバンディー関節の生理学(医歯薬) ・運動器リハビリテーションの機能評価(エルゼビアジャパン) ・標準整形外科科学(医学書院) ・結果の出せる整形外科理学療法(メジカルビュー) ・標準理学療法学 運動療法学 各論(医学書院)			

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
運動器理学療法Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 整形疾患の理学療法における評価・治療を理解し、考える力を養い臨床実習・卒業後の実務へと繋げる。 <授業目標(GIO)> 整形系疾患に対する理学療法の適応と実際を理解する。 <行動目標(SBO)> - 整形系疾患を理解し、各種ケースにおける問題点を推察し、問題解決に必要な評価項目の選択を行い、妥当な理学療法プログラムとゴールの立案ができる。 - 臨床実習ならびに卒業後の実務を視野に入れ真剣に学習ならびに演習を行う。 <授業の留意点> グループ学習への参加を積極的に行い、個人にて目標達成できるように取り組む。 <教科書> - 特に定めない <参考書> - 適宜資料配布	授業計画		備考
	1	整形疾患(架空症例)の初期情報を提示し、担当疾患についてグループで調べ学習をする。	演習
	2	架空症例に必要なと思われる情報収集項目・評価項目をグループ学習を通して列挙する。	演習
	3	架空症例に関する追加情報を提示し、症例に必要な情報収集項目・評価項目を学ぶ。	演習
	4	統合と解釈の考え方について学習する。	講義
	5	担当症例を通して統合と解釈を学習し演習する。	演習
	6	担当症例を通して統合と解釈を学習し演習する。	演習
	7	担当症例を通して統合と解釈を学習し演習する。	演習
	8	問題点抽出の考え方について学習する。	講義
	9	担当症例を通して問題点抽出の仕方を学習し演習する。	演習
	10	ゴール設定の考え方について学習する。	講義
	11	担当症例を通してゴール設定の仕方を学習し演習する。	演習
	12	治療プログラムの立て方について学習する。	講義
	13	担当症例を通して治療プログラムの立て方について学習し演習する。	演習
	14	症例発表を通して治療プログラム立案までの思考過程を学ぶ。	演習
	15	症例発表を通して治療プログラム立案までの思考過程を学ぶ。	演習
成績評価			
提出物:40%、発表点:60%			

※1 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
神経理学療法 I			基礎 ・ 専門基礎 (専門)	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	(前期) ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	(講義) ・ (演習) ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
脳卒中の理学療法における適応と実際を理解し、臨床実習・卒業後の実務へと繋げる。脳卒中についての国家試験問題に対応できるレベルを目指す。		1 脳梗塞、脳出血発症に関わる脳の解剖と機能について、特に神経と脳血管の基礎的解剖と機能について学習する	
脳卒中に対する理学療法の適応と実際を理解する。脳卒中についての国家試験問題を解き、解釈を学ぶ。		2 脳卒中の分類について脳梗塞・脳出血の違いを原因と病態を学習し、それぞれの回復過程についてステージ理論を中心に学習する	
脳卒中の評価の画像及び機能評価について脳の構造やCT・MRIなどの画像種類、脳溝の同定について画像診断脳画像から臨床症状を推論、機能予後予測について学習する		3 脳卒中の評価について脳卒中理学療法に必要な評価、標準的な機能・ADL評価の種類を学習する	
脳卒中の中核神経疾患の理学療法を断片的でなく系統立って理解し学習する。中核神経疾患は臨床実習、また卒業後の実務において大多数の学生が係わる疾患と思われる。したがって臨床実習及び卒業後の実務を視野に入れ真剣に学習ならびに実習を行う。症例を通して理学療法の流れを学ぶ。国家試験問題を積極的に解く。		4 脳卒中の治療におけるチーム医療・多職種連携について多職種の特性や役割を理解し、チーム医療を行う目的と手段を学習する	
脳卒中中生活期のリハビリテーションにおける生活期の患者状況とリスク管理、リハビリテーションの目的について学習する		5 脳卒中急性期のリハビリテーションにおける急性期の患者状況とリスク管理、リハビリテーションの目的について学習する	
模擬症例を想定し、急性期の患者に対する早期リハビリテーションの問題点の抽出から統合と解釈までロジックを組み立てることができるよう学習し演習する		6 脳卒中回復期のリハビリテーションにおける回復期の患者状況とリスク管理、リハビリテーションの目的について学習する	
模擬症例を想定し、回復期の患者に対する脳・身体機能回復を中心に問題点の抽出から統合と解釈までロジックを組み立てる		7 脳卒中中生活期のリハビリテーションにおける生活期の患者状況とリスク管理、リハビリテーションの目的を学習する	
模擬症例を想定し、回復期の患者に対する脳・身体機能回復を中心とした運動療法について学習し、実技練習を行う		8 模擬症例を想定し、回復期の患者に対する脳・身体機能回復を中心とし、家庭復帰を目指したADL向上のための機能訓練について学習し、実技練習を行う	
模擬症例を想定し、生活期の患者に対する病院、施設における再発の予防、廃用症候群の予防、ADLの維持・向上についての理学療法について学習し、実技練習を行う		9 模擬症例を想定し、生活期の患者に対する家庭における再発の予防、廃用症候群の予防、ADLの維持・向上、家族指導について学習し、実技練習を行う	
定期試験		10 定期試験	
成績評価		筆記試験:80%、レポート課題:20%	

※1 理学療法士としてリハビリテーション病院(中枢・神経系、整形外科)で実務経験14年以上

科目名			区分	
神経理学療法Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> ・脳血管疾患に伴う主たる症候・障害内容について理解し、理学療法としての介入方法について学ぶ。 ・脊髄損傷の理学療法における適応と実際を理解し、臨床実習・卒業後の実務へと繋げる。	授業計画		備考
	1	【脳血管障害患者のリハビリテーション】 リハビリテーション医療における時期(病院機能分化)毎の目的・注意点・理学療法について学び演習する	講義・演習
	2	【運動麻痺と理学療法】 中枢性運動麻痺の回復過程 / 異常筋緊張について / BRSと異常筋緊張の診方(MAS) / ボツリヌス療法について学び演習する	講義・演習
	3	【痛みと理学療法】 脳血管障害患者が痛みを訴える病態について / CRPSにおける疼痛のTypeとその関わり方について学び演習する	講義
<授業目標(GIO)> 脳血管疾患および脊髄損傷に対する理学療法の適応と実際について学ぶ。	4	【失行・失認と理学療法】 失行・失認の病態 / 失行・失認患者の特徴と動作 / 失行・失認患者への理学療法アプローチについて学び演習する	講義
	5	【姿勢・動作と理学療法】 先行随伴性姿勢調節(APAs), 逆応答現象, CPGについて / 脳血管障害患者の姿勢・動作改善に必要な介入視点について学び演習する	講義・演習
	6	【脳血管障害患者と理学療法①】 基本的な理学療法アプローチと実施上の留意点について学習し演習する	講義・演習
	7	【脳血管障害患者と理学療法②】 特殊な理学療法アプローチ (Burnnstrom法, PNF, Bobath法, 認知運動療法, CI療法, 促進回復法, バイオフィードバック法)について学習する	講義
<行動目標(SBO)> ・脳血管疾患患者に対する理学療法の本質的役割を理解し、臨床実習や資格取得後の実務に繋がる基本的知識と関わり方を身につける。 ・脊髄損傷の理学療法を断片的でなく系統立って理解し学習する。 ・臨床実習及び卒業後の実務を視野に入れ真剣に学習ならびに実習を行う。	8	理解のポイントを解説し質疑応答やデモンストレーションを通して本項目の振り返りを行なう	講義
	9	【脊髄損傷総論】 脊髄損傷の概要/分類(完全、不全、ブラウンセカール症候群、中心性頸髄損傷等)/病態、症状について学習する。	講義
	10	【脊髄損傷の二次障害】 随伴症状(呼吸障害、自律神経機能障害、排尿排便障害等)合併症(褥瘡、異所性骨化、拘縮)について学習する。	講義
	11	【脊髄損傷の機能障害と予後】 Frankelの分類/Zancolliの四肢機能分類/ASIAの神経学的評価について学習する。	講義
<授業の留意点> ・用語のみの理解や二次元なイメージで終わることなく、 具体的かつ三次元的なイメージづくりに努めること。 ・積極的に学ぶ姿勢で臨み、分からないことは質問したり調べるなどして素早い解決を心がけること。 ・積極的に実習に取り組むこと。	12	【脊髄損傷のリハビリテーション】 機能残存レベルに応じた獲得動作と動作訓練(C5、C6機能残存レベル)について学習し、脊髄損傷患者の獲得できる動作を演習する。	講義・演習
	13	【脊髄損傷のリハビリテーション】 機能残存レベルに応じた獲得動作と動作訓練(C7、C8機能残存レベル)について学習し、脊髄損傷患者の獲得できる動作を演習する。	講義・演習
	14	【脊髄損傷のリハビリテーション】 運動療法(ROM訓練、筋力増強訓練、プッシュアップ)について学習し、脊髄損傷患者に対する運動療法を演習する。	講義・演習
	15	【脊髄損傷のリハビリテーション】 車椅子、環境設定について学習し車椅子操作、キャスター上げについて演習する。	講義・演習
<教科書> ・『脳卒中理学療法の理論と技術』メジカルビュー社 ・『病気が見える vol.⑦ ～脳・神経～』メディックメディア社 ・講義プリント及び配布資料(文献)等 ・脊髄損傷マニュアル(医学書院)	16	定期試験	
<参考書>	成績評価		
※1 筆記試験:100% ※2 筆記試験:90%、レポート:10%			

※1 理学療法士として病院で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験14年以上

科目名			区分	
神経理学療法Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 中枢系疾患の理学療法における評価・治療を理解し、考える力を養い臨床実習・卒業後の実務へと繋げる。 <授業目標(GIO)> 中枢系疾患に対する理学療法の適応と実際を理解する。 <行動目標(SBO)> - 中枢系疾患を理解し、各種ケースにおける問題点を推察し、問題解決に必要な評価項目の選択を行い、妥当な理学療法プログラムとゴールの立案ができる。 - 臨床実習ならびに卒業後の実務を視野に入れ真剣に学習ならびに演習を行う。 <授業の留意点> グループ学習への参加を積極的に行い、個人にて目標達成できるように取り組む。 <教科書> - 特に定めない <参考書> - 適宜資料配布	授業計画		備考
	1	オリエンテーションを行い シラバスを使用した授業内容の説明を行なう。また成績評価の説明、教科書・参考書の説明を行い、全体的に今後の授業の方向性を理解してもらう。	グループ学習
	2	ケーススタディから見た評価実習について学び、評価実習で見る主な中枢性疾患の概要を学習する。	グループ学習
	3	症例に応じた評価項目を各種教科書から検索し学習する。またICFに応じた検査の考え方を理解する。	グループ学習
	4	統合と解釈の内容とその方法について具体例を示して学習する。またICFに基いた理学療法プロセスを学ぶ。	グループ学習
	5	代表的な中枢性疾患を各グループに振り分け、その病態の理解を学習し、疾患を有する患者像を学ぶ。	グループ学習
	6	各グループに振り分けた中枢性疾患における評価項目の選定と具体的な評価結果について学習する。	グループ学習
	7	各グループに振り分けた中枢性疾患における評価項目の選定と具体的な評価結果について学習する。	グループ学習
	8	中間発表を行い、それぞれの中枢性疾患への評価アプローチを共有し学習する。	グループ学習
	9	ケースを通して検査結果から統合と解釈に結び付けていく一連のプロセスを学習する。	グループ学習
	10	ケースを通して統合と解釈による患者像を把握する方法を学習する。	グループ学習
	11	ケースを通してディスカッションを行い統合と解釈から問題点を抽出する方法を学習する。	グループ学習
	12	ケースを通してディスカッションを行い統合と解釈から問題点を抽出する方法を学習する。	グループ学習
	13	ケーススタディにおける統合と解釈からの障害像・患者像を捉え、問題点抽出における発表資料の作成を行なう。	グループ学習
	14	各グループによる症例発表(第1班～第4班)を行い、各種疾患の全体像を共有し理解を深める。	発表
	15	各グループによる症例発表(第6班～第8班)を行い、各種疾患の全体像を共有し理解を深める。	発表
成績評価			
レジュメ80%、発表20%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

科目名			区分	
内部障害理学療法			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 後期 通年	30 (1)	講義 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 身体障害者の数は高齢化とともに年々増加傾向にある。なかでも、心疾患を中心とした内部障害患者は聴覚・視覚障害、肢体不自由者が近年横ばいであるのに対し、急増している。また、重複障害として、内部障害を持つ患者も少なくない。 本講義内では、各分野における代表疾患を例とし、その「捉え方」について学んでいく。 <授業目標(GIO)> 内部疾患に対する評価項目の立案。 内部障害に対する包括的アプローチ(多職種連携)の検討。 <行動目標(SBO)> 内部障害を説明できる。 生理学、解剖学に基づいて病態を説明できる。 評価項目の目的・意義を理解する。 運動療法のメリット・デメリットを理解する。 不明な点に対しては、自己学習ならびに質疑応答をする。 ディスカッションに積極的に参加する。 *病態については、各自内科学で学習していると思いますので、必ず復習し、代表的な症状とその機序は理解しておいてください。 <授業の留意点> 欠席・私語(ディスカッション形式を除く)しない。 予習・復習を行う。 <教科書> ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版 病気がみえる 循環器 vol.2 第4版 病気がみえる 呼吸器 vol.4 第2版 リハビリテーション リスク管理 ハンドブック 改訂第3版 <参考書> 各ガイドライン、論文資料		1 全般的な内部障害の捉え方、内部障害におけるADLの制限を学習する。	講義
		2 COPDの評価とアプローチにおける呼吸器能検査、肺気量分画、呼吸筋の筋力、COPDの病期分類を学習する。	講義
		3 COPDの評価とアプローチにおける運動耐容能評価の意義と目的、運動耐容能の評価法、無酸素作業閾値を学習する。	講義
		4 COPDの評価とアプローチにおける呼吸の生理学、動脈血液ガス分析、慢性Ⅱ型呼吸不全の呼吸調節を学習する。	講義
		5 COPDの評価とアプローチにおける画像評価、呼吸器の構造、胸部X線画像の基本および読影、線状影と網状影、画像所見の報告と記録を学習する。	講義
		6 虚血性心疾患の評価とアプローチにおける心臓リハビリの概念の変遷、心臓リハの定義、心血管リハの病期区分、心血管疾患に関するガイドラインを学習する。	講義
		7 心疾患評価とアプローチについて臨床的な具体的事例を通して学習する。	講義
		8 心疾患評価とアプローチについて心臓の形態解剖、虚血性心疾患の定義、労作性狭心症の機序を理解する。	講義
		9 心電図の種類や解剖生理学的な刺激伝導系の理解、および心疾患と心電図の関連を学習する。	講義
		10 糖尿病と慢性腎臓病について、代謝およびメタボリックシンドローム、糖尿病について学習する。	講義
		11 糖尿病と慢性腎臓病について、その治療目標および食事療法と運動療法、糖尿病患者のセルフケア行動について学習する。	講義
		12 慢性心不全の評価とアプローチにおける循環器系の構造と機能および心不全条件下のFrank-Starlingの法則について学習する	講義
		13 心不全の代償機転と心不全の進行度による分離および自覚症状について学習する。	講義
		14 心不全の評価について心不全の重症度分類、僧坊弁狭窄症および閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症について学習する。	講義
		15 心血管内圧の正常値、心不全に対する心臓リハの流れ、心臓リハビリにおける運動療法について学習する。	講義
		16 定期試験	
		成績評価	
		定期試験100%	

※1 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
その他疾患理学療法			基礎 ・ 専門基礎	専門
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

授業概要		授業計画	備考
理学療法を必要とする様々な疾患について、必要な知識と考えを深めていく。対象疾患は切断・がん・小児など多岐にわたり、さらに老年期やリスク管理、予防についても講義を行っている。近年、医療技術の進歩はめざましく、また施設におけるリハビリだけではなく在宅サービスなどそのフィールドは広がっている。現代の大きな変化に対応できるよう、各疾患について講義やグループ学習を行い、知識とともにグループ学習の重要性も学んでいく。		1 当院のリハについて～熊本における小児在宅人工呼吸の実際～	
		2 小児・神経筋疾患の呼吸理学療法	
		3 人工呼吸器について	
＜授業目標(GIO)＞ ・小児疾患の中でも特に呼吸管理を要する神経筋疾患を中心に、その病態から、呼吸機能評価～アプローチについて理解深め、障害をもって生まれ、生活するという事を考える機会をつくる。 ・がんリハビリテーションを受ける患者に対して、基本的知識を習得し、身体・心身にアプローチすることの重要性を理解する。 ・各疾患に対する理学療法の特徴と概論、方法論について学ぶ。		4 小児・神経筋疾患の呼吸理学療法	
		5 気道クリアランスの理論と演習	
		6 神経筋疾患の呼吸ケア(非侵襲的人工呼吸について、非侵襲的人工呼吸における日常ケア)～グループ演習～	
＜行動目標(SBO)＞ ・神経筋疾患の病態、呼吸不全の特徴や呼吸機能評価～アプローチについて説明できる。 ・気道クリアランスについて説明できる。 ・がん患者の理学療法の基本を理解する。 ・患者の身体的・心理的狀態について学ぶ。 ・チームアプローチの重要性を学ぶ。 ・患者がリハビリテーションに何を求めているか考える。 ・講義、演習を中心に確実な知識の習得を目的とする。		7 神経筋疾患の呼吸ケア(非侵襲的人工呼吸について、非侵襲的人工呼吸における日常ケア)～グループ演習～	
		8 がんの理学療法概論	
		9 がんの理学療法周術期	
＜授業の留意点＞ ・呼吸生理の知識必要。 ・死について深く考えてみて下さい。 ・授業計画を熟知し、疾患について継続的な学びができるよう心がける。		10 化学療法・放射線療法	
		11 摂食嚥下障害	
		12 リンパ浮腫	
＜教科書＞ ・プリント配布 ・JINスペシャルNPPV(非侵襲的陽圧換気療法)のすべて これからの人工呼吸 (医学書院) ・リハビリテーション総論 診断と治療社 ・随時提示、資料提供		13 緩和ケア	
		14 心のケア	
		15 まとめ	
＜参考書＞ ・NPPVのすべて、医学書院 ・ウエスト 呼吸生理学入門、メディカルサイエンスインターナショナル ・小児生理学、へるす出版 ・随時提示、資料提供		16 切断(切断者の術前・術後の理学療法)	
		17 切断(義肢装着練習)	
		18 義足の異常歩行	
		19 補装具療法(下肢装具)	
		20 補装具療法(上肢装具・体幹装具)	
		21 パーキンソン病の理学療法	
		22 ALS・糖尿病の理学療法	
		23 老年期のリハビリテーション	
		24 老年期のリハビリテーション	
		25 老年期のリハビリテーション	
		26 予防理学療法	
		27 予防理学療法	
		28 予防理学療法	
		29 理学療法におけるリスク管理	
		30 理学療法におけるリスク管理	
		31 定期試験	
成績評価			
※1 筆記試験100%			
※2 筆記試験100%			
※3 筆記試験・レポート100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

※2 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

※3 理学療法士として病院で実務経験17年以上

科目名			区分	
ADL I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1)

<授業概要> 医学的リハビリテーションの目標を決定する上で最も重要な核となる活動制限に対する基本的な評価、練習、指導について学ぶ。(補装具・自助具の活用、動作の工夫、環境整備なども含む。)又、他職種間とのコミュニケーションを円滑にできるよう日常生活活動(以下、ADL)用語について理解し、「できるADL」「しているADL」を分析、最終的には生活の質(QOL)向上に向けた考え方を学ぶ。			
<授業目標(GIO)> ADLの概念、考え方を理解し、ADL評価法の実施とADL練習、指導方法を習得する。			
<行動目標(SBO)> ・ADL用語を使用したコミュニケーションがとれる。 ・ADLの評価を実施できる。 ・「できるADL」「しているADL」の差異が生じる理由を理解し、説明できる。 ・ICFにおけるADLの考え方が説明できる。 ・補装具の取扱い方法が説明できる。 ・ADLの指導方法を説明、実施できる。			
<授業の留意点> ・積極的に授業に参加すること。 ・常に生活を意識して考えること。 ・グループワークでは積極的に考えを共有すること。 ・実技に関しては、講義以外の時間も積極的に練習をすること。			
<教科書> 日常生活活動学テキスト改訂第2版 (監)細田多穂 南江堂2014			
<参考書> 鶴見隆正編:標準理学療法学, 日常生活活動/生活環境学,第3版, 医学書院, ※必要に応じて資料を配布。			

授業計画		備考
1	オリエンテーションを行いシラバスを使用した授業内容の説明を行なう。また成績評価の説明、教科書・参考書の概要説明を行なう。	講義
2	一般的日常生活の現状を自らの生活から自覚してもらう。そこから必需行動・拘束行動・自由行動への分類を行い自分自身の生活状況の自覚を深める。	講義
3	ADL概念形成をめぐる歴史的展開を説明し、ADLの概念および周辺領域のリハビリテーション概念を確認し学習してもらう。	講義
4	ADLの範疇、基本的ADL 手段的ADL 応用的ADLの確認を行い学習する。	講義
5	ICFからみたADLの位置づけを学習し、具体的事例をもとにICF構造に基いたADLの捉え方を学習する。	講義
6	QOLの概念とその構造を理解する。また生活構造の特徴と生活行為分類、健康高齢者と障害高齢者の生活構造の差異を学習する。	講義
7	さまざまなADL評価法、例えばKenny式・PULSES・Katz Indexなどの概要を学ぶ。	講義
8	ADL評価でよく使用するBarsal Indexの内容と評価方法を学習する。	講義
9	ADL評価でよく使用するFIM、特に運動領域の内容と評価方法を学習する。	講義
10	ADL評価でよく使用するFIM、特に認知領域の内容と評価方法を学習し、最後に口頭試問で確認を行なう。	講義
11	介助・移動(移乗)動作の定義および介助の分類を学習し、実技において実際の動作を確認する。	講義・実技
12	介助動作の程度や種類、過剰な介助の影響や介助の原則を学習する。また実技において重心線と基底面を学習し理解する。	講義・実技
13	簡便な身体重心の求め方を学習し身体重心の位置を学習する。また介助の実技を行い、臥位における誘導・部分介助・全介助を実技にて体験する。	講義・実技
14	介助の実技から起き上がりにおける誘導、部分介助、全介助の方法を学習する。	講義・実技
15	介助の実技から座位姿勢から起立動作での誘導、部分介助、全介助の方法を学習する。	講義・実技
16	定期試験	

成績評価	
筆記試験:90%、レポート:10%	

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

科目名			区分	
ADL II			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

授業概要		授業計画		備考
・疾患の症候内容や動作上の特徴などを踏まえながら医学的リハビリテーションにおける目標設定上、非常に重要な意味を持つ『活動制限』を捉え、ADL上の関わりについて学ぶ。 ・個人さらにはグループでの学習機会を通して対象者のADL獲得及びQOL向上に向けた思考を共有する。		1	理学療法士に求められる障害を持った方々へのADL指導の在り方について学習する	講義
		2	基本的動作、応用的動作、ADL上の姿勢・肢位について学習する	講義
・ADLの概念、考え方を理解し、必要な評価法の実施を図ることができる。また、疾患特有の症候や動作上の特徴を理解し、適切な介助・支援方法ならびに指導方法を選択し、実施することができる。		3	動作介助の意義とともに基本的動作における介助法を学び演習する	講義・演習
		4	床上動作・立ち上がり・移乗を中心とした介助法を検討し演習する	演習
・できる・している・するの視点でADLを捉え、症例に応じてADL上の具体的な関わり方を立案し、指導することができる。 ・補装具や補助具を選択し、必要性を含めて具体的に説明及び指導することができる。		5	床上動作・立ち上がり・移乗を中心とした介助法を演習する	演習
		6	床上動作・立ち上がり・移乗を中心とした介助法を演習する	演習
・障害イメージを持って日常生活を考えること。 ・積極的な姿勢で臨み、活発な意見交換を図ること。 ・講義以外の時間も実技の練習を図ること。		7	脳卒中片麻痺患者の床上動作・立ち上がり・移乗に対するADL指導を学び演習する	講義・演習
		8	脳卒中片麻痺患者の移動動作(車椅子・歩行)に対するADL指導を学び演習する	講義・演習
・教科書 ・柴喜崇・下田信明:PT・OTビジュアルテキスト ADL第1版 羊土社, 2015 ・(編)鶴見隆正:標準理学療法学, 日常生活活動/生活環境学, 第3版, 医学書院, 2009 ※必要に応じて資料を配布		9	脳卒中片麻痺患者のSelf-careに対するADL指導を学び演習する	講義・演習
		10	脳卒中片麻痺患者の乗り物への乗降などに対するADL指導を学び演習する	講義・演習
・成績評価 筆記試験：90%、レポート：10%		11	松葉杖処方と荷重負荷設定を中心に下肢骨折患者のADL指導を学び演習する	講義・演習
		12	人工関節全置換術後患者の疾患特性を踏まえてADL指導を学び演習する	講義・演習
		13	関節リウマチ(RA)患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		14	関節リウマチ(RA)患者におけるADL指導を演習する	演習
		15	痛性疾患患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		16	腰痛患者へのリーフレット作成を通してADL指導を演習する	演習
		17	パーキンソン病(PD)患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		18	パーキンソン病(PD)患者におけるADL指導を演習する	演習
		19	脊髄小脳変性症(SCD)患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		20	脊髄小脳変性症(SCD)患者におけるADL指導を演習する	演習
		21	筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		22	筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者におけるADL指導を演習する	演習
		23	筋ジストロフィー(MD)患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		24	筋ジストロフィー(MD)患者・児におけるADL指導を演習する	演習
		25	脳性麻痺(CP)患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する	講義
		26	脳性麻痺(CP)患者・児におけるADL指導を演習する	演習
		27	循環器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する	講義・演習
		28	呼吸器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する	講義・演習
		29	代謝障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する	講義・演習
		30	障害受容を踏まえたADL指導の在り方について学習する	講義
		31	定期試験(筆記・実技)	

※1 理学療法士として病院で実務経験14年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験5年以上

科目名			区分	
物理療法Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 物理療法は運動療法と並ぶ代表的治療であり、熱・光・水・電気・機械的刺激など各種物理的刺激を生体に加えることで症状の改善を図る理学療法の一手段である。 臨床の場で扱われている物理療法について、その作用、効果、禁忌を理解し、患者の症状に合わせた治療法の選択、提供が出来るように学習する。	<授業目標(GIO)> 基本的な物理療法について理解し、理論的に説明することが可能である。また、機器の安全かつ正確な操作が実施できる。	1 「物理療法の歴史」・古代ギリシア以来医療に応用された自然エネルギー(太陽光線、温泉など)を知る ・必要な知識の概説(数学、物理、化学ほか、解剖学、生理学について)をする	講義
		2 「疼痛と物理療法」 ・痛みの分類 ・有病性疾患に対するアプローチ	講義
<行動目標(SBO)> ・物理療法で用いる作用物質について説明できる。 ・リハビリテーションにおける物理療法の役割について説明できる。 ・熱と冷却の生理的作用について説明できる。 ・各種物理療法の禁忌と注意事項を概説できる。 ・治療目標に合わせた物理療法を選択できる。	<授業の留意点> 痛みおよび温熱・寒冷の生理学的知識が必要となるため、生理学の復習を行い知識を整理しておくこと。	3 「リスク管理」・各疾患に特有のリスクを学ぶ ・医療安全管理とリスクマネジメントを学ぶ	講義
		4 「リスク管理」・使用する機械、器具の概要を学ぶ ・他に及ぼす影響を学ぶ ・治療の実際とリスクについて知る	講義
<教科書> PT/OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける 物理療法 第1版	<参考書> 必要時資料配布	5 「温熱療法:総論」・温熱療法の分類を学習する ・温熱の物理学的特性を学習する	講義
		6 「温熱療法:総論」・温熱の生理学的特性を確認する ・温熱による血管の変化を知る	講義
<成績評価> 筆記試験:50%、レポート:50%		7 「伝導熱療法」・ホットパック (生理学的作用、適応と禁忌、治療の実際とリスク)について学習する	講義
		8 「伝導熱療法」・ホットパック (生理学的作用、適応と禁忌、治療の実際とリスク)について学習する	演習
		9 「伝導熱療法」・パラフィン浴 (生理学的作用、適応と禁忌、治療の実際とリスク)について学習する	講義
		10 「伝導熱療法」・パラフィン浴 (生理学的作用、適応と禁忌、治療の実際とリスク)について学習する	演習
		11 「エネルギー変換法」・極超短波療法の特徴と治療原理について学習する	講義
		12 「エネルギー変換法」・極超短波療法(生理学的作用、適応と禁忌、治療の実際とリスク)について学習する	演習
		13 「エネルギー変換法」・超音波療法の特徴と治療原理について学習する	講義
		14 「エネルギー変換法」・超音波療法(生理学的作用、適応と禁忌、治療の実際とリスク)について学習する	演習
		15 「水治療法総論」・水治療法とは ・水治療法の分類 について学習する	講義
		16 「水治療法総論」・水治療法の治療原理について学習する ・水治療法施設環境の感染および汚染防止対策について学習する	講義
		17 「全身浴」について学習する ・全身浴の特徴と治療原理 ・生理学的作用 ・治療の実際とリスク	演習
		18 「局所浴」について学習する ・局所浴の特徴と治療原理 ・生理学的作用 ・治療の実際とリスク	演習
		19 「交代浴」について学習する ・交代浴の特徴と治療原理 ・生理学的作用 ・治療の実際とリスク	演習
		20 「牽引療法総論」について学習する ・牽引療法とは ・牽引療法の分類 ・牽引療法の目的 ・牽引療法の治療効果 ・牽引療法の禁忌	講義
		21 「頸性牽引」について学習する ・頸性牽引とは ・分類 ・牽引力 ・牽引方向と治療時間 ・牽引部位	講義
		22 「頸性牽引」について学習する ・治療の実際(電動式間欠牽引) ・牽引の禁忌 ・頸性牽引の適応 ・頸性牽引療法の有効性	演習
		23 「腰性牽引」について学習する ・腰性牽引とは ・分類 ・牽引力 ・牽引の姿勢および方向 ・牽引力と治療時間	講義
		24 「腰性牽引」について学習する ・治療の実際(電動式間欠牽引) ・その他の腰性牽引 ・適応および禁忌 ・腰性牽引療法の有効性	演習
		25 「実習」・温熱と乾熱でどのように温度変化が異なるのか比較する(ホットパック、パラフィン)	演習
		26 「実習」・実験結果をもとにグループワークでレポートを作成する	演習
		27 「実習」・寒冷に対する過敏性を確認する(アイスキューブで皮膚の変化を観察する)	演習
		28 「実習」・各種寒冷療法の手順を確認し、臨床への応用やリスク管理を考察する	演習
		29 「実習」・清涼浴、交代浴(マッサージ効果や血行改善効果、関節運動に対する効果を体験する)	演習
		30 「実習」・交代浴(温水と冷水の交代浴の手順を確認し、臨床応用やリスク管理について理解する)	演習
		31 定期試験	
		成績評価	

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験8年以上

科目名			区分	
物理療法Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

授業概要		授業計画	備考
<授業概要> 物理療法は運動療法と並ぶ代表的治療であり、熱・光・水・電気・機械的刺激など各種物理的刺激を生体に加えることで症状の改善を図る理学療法の一手段である。臨床の場で扱われている物理療法について、その作用、効果、禁忌を理解し、患者の症状に合わせた治療法の選択、提供が出来るように学習する。 <授業目標(GIO)> 基本的な物理療法について理解し、理論的に説明することが可能である。また、機器の安全かつ正確な操作が実施できる。 <行動目標(SBO)> - 物理療法で用いる作用物質について説明できる。 - リハビリテーションにおける物理療法の役割について説明できる。 - 各種物理療法の生理的作用について説明できる。 - 各種物理療法の禁忌と注意事項を概説できる。 - 治療目標に合わせた物理療法を選択できる。 <授業の留意点> 痛みおよび温熱・寒冷の生理学的知識が必要となるため、生理学の復習を行い知識を整理しておくこと。 <教科書> PT/OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける 物理療法 第1版 <参考書> 必要時資料配布		1 授業計画説明・痛みの概要と鎮痛のメカニズムについてテキストを用いて学習する。	講義
		2 体温調節:体温維持の目的とその方法についてテキストを用いて学習する。	講義
		3 テーピングの目的・効果・基本構成について配布資料を用いて学習する。	講義
		4 足関節のテーピングについて実際の巻き方と注意事項を理解し、演習する。	演習
		5 電気刺激療法の基本:電気とは何か、また電流のタイプ(交流、直流、パルス電流)についてテキストを用いて学習する。	講義
		6 電気刺激療法:刺激パラメーター(波形・強度・周波数・その他)についてテキストを用いて学習する。	講義
		7 電気刺激療法:SD曲線とは何か、電気刺激の禁忌・注意事項についてテキストを用いて学習する。	講義
		8 TENSとは何か、TENSによる鎮痛メカニズム、分類、効果についてテキストを用いて学習する。	講義
		9 TENSの適応と効果、禁忌・注意事項についてテキストを用いて学習する。	講義
		10 TENSの実際:TENSの実施方法を理解し、実施例(疾患別)を通してその使い方をテキストを用いて学習する。	講義
		11 神経筋電気刺激とは何か、筋力増強のためのNMESについて効果・適応・禁忌と治療の実際をテキストを用いて学習する。	講義
		12 中枢性運動麻痺および痙攣抑制のためのNMESについて、その効果・適応・禁忌と治療の実際をテキストを用いて学習する。	講義
		13 イオントフォレシスについてそのメカニズム、効果と適応・禁忌、イオントフォレシスの実際についてテキストを用いて学習する。	講義
		14 バイオフィードバックについて適応と効果、禁忌、EMGバイオフィードバック療法の実際について学ぶ。また、創傷治癒のための電気療法の適応と効果・禁忌についてテキストを用いて学習する。	講義
		15 上記講義で学んだ知識を基に次の電気刺激療法の実験および演習をする。(TENS,NMES,SD曲線、バイオフィードバック)	演習
		16 上記講義で学んだ知識を基に、次の電気刺激療法の実験および演習を行う。(TENS,NMES,SD曲線、バイオフィードバック)	演習
		17 光線療法:光とは何か、波長とエネルギー、光化学作用、生理学的作用についてテキストを用いて学習する。	講義
		18 LASERの物理的性質、人体への照射の基礎知識、LASERの効果と適応・禁忌についてテキストを用いて学習する。	講義
		19 赤外線:基礎知識、赤外線療法の作用と適応、禁忌、紫外線療法の基礎知識、紫外線療法の作用と適応、禁忌についてテキストを用いて学習する。	講義
		20 上記講義で学んだ知識を基に、光線療法についてその使用法について演習する。(LASER、紫外線療法、赤外線療法)	演習
		21 牽引療法:牽引療法の分類(直達と介達牽引、力源、連続性、部位)についてテキストを用いて学習する。	講義
		22 牽引療法の効果と適応、禁忌および注意事項についてテキストを用いて学習する。	講義
		23 上記講義で学んだ知識を基に、介達牽引の各種設定時間について実験し、その使い方を考察する。	演習
		24 上記講義で学んだ知識および演習の結果を基に、介達牽引の使用法、注意事項について演習する。	演習
		25 マッサージ療法の定義、分類と生理学的作用についてテキストを用いて学習する。	講義
		26 マッサージについて筋膜リリース、軟部組織モデラーション、スポーツマッサージをテキストを用いて演習する。	演習
		27 物理療法に関わる国家試験過去問を用いて温熱療法について知識の整理をする。	演習
		28 物理療法に関わる国家試験過去問を用いて水治療法について演習し、知識の整理をする。	演習
		29 物理療法に関わる国家試験過去問を用いて電気療法について演習し、知識の整理をする。	演習
		30 物理療法に関わる国家試験過去問を用いて牽引療法その他について演習し、知識の整理をする。	講義
		31 定期試験	
		成績評価	
		筆記試験:50%、実技演習点・レポート:50%	

※1 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
義肢装具学			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
PT 3年次	前期・後期・通年	60 (2)	講義・演習・実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける位置付け、および装具の適合判定について演習を取り入れ学習する。	授業計画		備考
	1	2	3
<授業目標(GIO)> 装具に関する基礎知識について理解する。疾患・症状・状態に対してどのような義肢装具を適応していくのかを理解する。	オリエンテーション・義肢装具概論(定義・機能による分類・歴史)	装具各論：体幹装具(頸椎装具・仙腸装具：種類・機能・目的)	講義
	装具各論：体幹装具(腰仙椎装具：種類・機能・目的)	装具各論：体幹装具(胸腰仙椎装具：種類・機能・目的)	講義
<行動目標(SBO)> 症状・状態等を理解して適応する装具・義肢を選択できるようにする。 装着後のチェックアウトができるようにする。	装具各論：体幹装具(側弯矯正用装具：種類・機能・目的)	装具各論：下肢装具(概念・種類・継手等の部品説明)	講義
	装具各論：下肢装具(疾患と適合・アライメント・採型)	装具各論：下肢装具(長下肢装具・短下肢装具：種類・目的)	講義
<授業の留意点> ・必要に応じ適宜伝えます。	装具各論：靴型装具(基本構造・種類・疾患と適合)	装具各論：特殊装具(特殊装具・ヘルネス病装具・小児装具)	講義
	装具各論：特殊装具(特殊装具・ヘルネス病装具・小児装具)	装具各論：上肢装具(上肢装具：種類・機能・目的)	講義
<教科書> ・リハビリテーション義肢装具学(メジカルビュー社) ・義肢装具のチェックポイント(医学書院)	装具各論：上肢装具(上肢装具：種類・機能・目的)	下肢装具の採型・製作	講義
	下肢装具の採型・製作	試験解説	演習
<参考書> ・必要に応じてその都度提示します。	義足各論(定義・体系別分類・機能による分類)	義足各論：疾患と適合及び継手(大腿義足・膝義足)	講義
	義足各論：疾患と適合及び継手(下腿義足・足根中足義足)	義足各論：アライメントと異常歩行(下腿義足)	講義
	義足各論：アライメントと異常歩行(大腿義足・股義足)	義足各論：チェックアウト(股義足・大腿義足・膝義足)	講義
	義足各論：チェックアウト(下腿義足・サ임義足)	義手各論：前腕義手・上腕義手(ソケットの種類・継手・手先具・ハーネス等)	講義
	下肢装具の採型・製作	下肢装具の採型・製作	演習
	下肢装具の採型・製作	下肢装具の採型・製作	演習
	下肢装具の採型・製作	下肢装具の採型・製作	演習
	模擬体験義足による歩行	義肢の練習問題	演習
	義肢の練習問題	試験解説	講義
	試験解説	定期試験	講義
	定期試験		
成績評価			
定期試験100%			

※1 義肢装具士

科目名			区分	
理学療法特論演習Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義・演習・実習	専任教員(※1) 専任教員(※2) 非常勤講師(※3)

<授業概要> 実際の現場で 求められる専門的な視点とその関わりについて学ぶ また、リハビリテーションサービスにおける 理学療法士の役割や関わり方の相違について 学ぶ。 <授業目標(GIO)> 臨床実習や資格取得後に経験する症例について病態や特徴の把握を通して理解を深め、さらに生活者として捉え、在宅におけるより具体的な生活イメージの構築につなげる。 <行動目標(SBO)> 講義を通して学んだ症例に対して、実施すべき理学療法評価や治療を根拠をもって選択することができるようになる。また、サービスを提供する施設形態や求められる役割も十分理解した上で、正しく実施することができるようになる。 <授業の留意点> 遅刻や欠席をしないよう心がけ、最後まで集中して講義に臨むこと。 <教科書> 必要に応じて連絡 ※講義内容に応じて資料配布あり <参考書> 講義内容に関係する教科書ならびに文献等 ※自らで選択	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	
	2	講義・演習	
	3	講義・演習	
	4	講義・演習	
	5	講義・演習	
	6	講義・演習	
	7	講義・演習	
	8	講義・演習	
	9	講義・演習	
	10	講義・演習	
	11	講義・演習	
	12	講義・演習	
	13	講義・演習	
	14	講義・演習	
	15	まとめ	
成績評価			
課題提出100%			

- ※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上
 ※2 理学療法士として病院で実務経験12年以上
 ※3 理学療法士として病院で実務経験13年以上

科目名			区分	
理学療法特論演習Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> グループでの学習を通して、これまで学内での講義で学んできた知識に加え、3年次の評価実習で学んだことなどを中心に共有を図り、理学療法における評価や治療に対する理解を深める。 長期臨床実習に向けた具体的な知識及び技術の体得を図る。 <授業目標(GIO)> 長期臨床実習において必要となる症例に対する理学療法評価ならびに治療に対する考え方を習得する。 <行動目標(SBO)> 評価実習で経験した内容の共有を図ることで、様々な症例に対する具体的な介入視点を養い、実施すべき検査項目等を根拠をもって選択できるようになる。また、理学療法評価の流れに沿って主要となる問題点を明らかにし、ゴールの達成を意識した効果的な治療プログラムの立案及び施行ができるようになる。 <授業の留意点> 各自が実習で経験してきたことを、班内で少しでも多く共有できるよう、積極的なディスカッションを行なう。 <教科書> 各自で用意 <参考書> 各自で用意	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	
	2	グループワーク	
	3	グループワーク	
	4	グループワーク	
	5	グループワーク	
	6	グループワーク	
	7	グループワーク	
	8	グループワーク	
	9	グループワーク	
	10	グループワーク	
	11	グループワーク	
	12	グループワーク	
	13	グループワーク	
	14	グループワーク	
	15	まとめ	
成績評価			
課題提出100%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
理学療法特論演習Ⅲ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

<授業概要> 基礎主要三科目となる解剖学・運動学・生理学の知識整理と習得を行い、長期臨床実習ならびに国家試験対策へとつなげる。 <授業目標(GIO)> 基礎主要三科目(解剖学・運動学・生理学)の知識習得。 <行動目標(SBO)> グループでの学習を通して、お互いの理解状況を表出し合いながら知識の共有ならびに整理を図り、教科間でのつながりを意識しながら、臨床現場での実践的対応に活かすためのベースとなる知識の構築を目指す。 <授業の留意点> グループ内にて質疑やプレゼンテーションを積極的に行ないながら知識の共有ならびに定着化を図ること。 <教科書> 各自用意 ※特別講義については配布資料あり <参考書> 各自用意	授業計画		備考
	1	グループでのシェア学習	
	2	グループでのシェア学習	
	3	グループでのシェア学習	
	4	グループでのシェア学習	
	5	グループでのシェア学習	
	6	グループでのシェア学習	
	7	グループでのシェア学習	
	8	グループでのシェア学習	
	9	グループでのシェア学習	
	10	グループでのシェア学習	
	11	【特別演習】 基礎主要三科目を通して捉える症例像 (テーマ) 高次脳機能障害(失行/失認) ●解剖学・生理学 ⇒ 病態メカニズム	
	12		
	13		
	14		
	15	まとめ	
成績評価			
課題提出100%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
理学療法専門分野特論			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	60 (2)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1) 専任教員(※2)

＜授業概要＞	授業計画	備考	
国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義 等を行なう。	1	・自己学習 ・ペア学習(一問一答) ・グループでのシェア学習 ・特別講義 ・模擬試験 ・小テスト 上記内容を中心とした国家試験対策を図る。 また、このとき、学習状況や理解度を 確認しながら随時検討を図っていき、妥当	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
＜授業目標(GIO)＞ 基礎分野の知識をもとに専門分野における疾患や治療に関する知識を理解する。	8		
	9		
	10		
＜行動目標(SBO)＞ ・国家試験の過去問を通して一問一答形式に対応できる知識を身に付ける。 ・グループ学習においてインプットやアウトプットをすることで知識を整理し、定着を図る。 ・問題を繰り返し解くことで解答の仕方や早さを身に付ける。	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
＜授業の留意点＞ 自己学習やグループ学習において生じた疑問や解釈が難しい内容等については、適宜、質問や調べ学習等の実施を図り、速やかな解決に努めること。	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
＜教科書＞ 国家試験対策本(後日購入) 各自で必要な教科書を使用	26		
	27		
	28		
	29		
＜参考書＞ 各自で必要時に使用	30		
	成績評価		
課題提出100%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

※2 理学療法士として病院で実務経験12年以上

科目名			区分	
生活環境学Ⅰ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
2年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 障がい者や高齢者の生活環境(日常生活)の中にどのような問題があるのか、理学療法士として、人的環境、社会的環境、物理的環境の面から考える。 <授業目標(GIO)> 手技的な側面だけでなく、障がい者や高齢者が安心して生活できる生活環境を整備できる知識を習得する。 <行動目標(SBO)> - 生活環境上の評価項目を挙げることができる。 - 生活環境上の問題点を挙げることができる。 - 生活環境上の問題点に対する解決方法を考えることができる。 <授業の留意点> - 講義を通して生活環境に対して意識を持つこと。 <教科書> 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 (医学書院) <参考書> - 配布資料	授業計画		備考
	1	オリエンテーションを行い、シラバスを使用した授業内容の説明を行なう。また成績評価の説明、教科書・参考書の概要説明を行い、今後の学習の方向付けを行う。	講義
	2	生活環境を自覚してもらうため、各自の居住空間の間取り・段差の有無とその高さなどを確認し記録する。それと合わせ住宅設備用語記号も学習する。	講義
	3	生活環境学の概念、生活環境の要素、生活環境の分類と主体者への影響を理解し学習する。	講義
	4	アフオーダンス、Institute of medicine modelによる個体と環境の関係性・健康な状態と健康でない状態の比較を行い、障害と生活環境の相互作用を学習する。	講義
	5	バリアフリー・ユニバーサルデザインの概念を学習し、身近にある周囲の具体的事例からこれらの理解を深める。	講義
	6	生活環境の評価の開始時期やその方法を学習する。また基本的な居住空間スペースの広さ、スロープ勾配、トイレ、廊下の広さを学習する。	講義
	7	生活環境から感染症を起こすリスクを学び、最近の感染症の動向、感染症の歴史、感染症を起こす病原微生物、感染症法による感染症の分類について学習する。	講義
	8	感染症における消毒と滅菌について、感染様式・感染ルートによる分類を学習する。また感染性胃腸炎とインフルエンザの理解を深め、アルコール製剤における手指擦療法を習得する。	講義・実技
	9	生活環境と補装具・移動補助具の関連を学習し、福祉用具の定義、補装具の種類、歩行補助用具の主な役割、杖・松葉杖・歩行器の概要について学習する。	講義
	10	杖の種類、T字杖・四脚杖・松葉杖の各部の名称を覚えて、さらに杖の長さ調整と適合判定が行なえるように実技を交えながら学習していく。また杖使用時の注意事項と危険行為を学ぶ。	講義・実技
	11	歩行器の種類とその名称を学び、実際の取り扱い方や歩行器使用時の介助法および注意点を実技を交えながら学習していく。	講義・実技
	12	車椅子の名称およびその種類を学び、車椅子の取り扱い方、車椅子使用時の介助法と操作方法、車椅子使用時の注意点、危険行為の確認を実技を交えながら学習していく。	講義・実技
	13	学院周辺の地域にて車椅子を使用し、地域環境から受ける障壁の理解を深め学習していく。	講義・実技
	14	学院周辺の地域にて車椅子を使用し、地域環境から受ける障壁の理解を深め学習していく。	講義・実技
	15	地域フィールドワークの体験発表を行い、障害を持った人達が生活環境から受ける障壁を共有し学習する。	講義・実技
	16	定期試験	
成績評価			
筆記試験90%、レポート10%			

※1 理学療法士として介護老人保健施設及び介護事業所で実務経験6年以上

科目名			区分	
生活環境学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	専任教員(※1)

<授業概要> 生活環境学Ⅰを踏まえ、生活環境整備における知識を深める。 具体的には、自助具や日常生活用具などの福祉用具、高齢者や各疾患特有の住宅改修を学ぶ。 <授業目標(GIO)> 高齢者や疾患別の生活環境整備、また、福祉用具の知識を習得し、各対象者の生活環境の改善や自立支援ができるようになる。 <行動目標(SBO)> ・福祉用具の各々の特徴を理解する。 ・各疾患に合わせた福祉用具を選択することができる ・各疾患における生活環境整備の特徴を理解する。 <授業の留意点> 将来、理学療法士として、生活環境に携わることへの意識を持ち、必要な知識を身につけて欲しい <教科書> ・福祉住環境コーディネーター 検定試験® 2級公式テキスト ・福祉住環境コーディネーター検定試験 2級過去問題集 <参考書> 配布資料	授業計画		備考
	1	オリエンテーション 地域リハビリテーション総論	講義
	2	地域理学療法関連制度	講義
	3	介護保険制度	講義
	4	在宅理学療法基礎	講義
	5	在宅理学療法住環境	講義
	6	在宅理学療法福祉用具	講義
	7	介護予防	講義
	8	住環境演習	講義・演習
	9	住環境演習	講義・演習
	10	住環境演習	講義・演習
	11	住環境演習	講義・演習
	12	住環境演習	講義・演習
	13	住環境演習	講義・演習
	14	住環境演習	講義・演習
	15	まとめ	講義
16	定期試験		
成績評価			
筆記試験:100%			

※1 理学療法士として病院で実務経験15年以上

科目名			区分	
地域理学療法学 I			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期・後期・通年	30 (1)	講義・演習・実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 地域リハビリテーションの背景や現状を理解し、地域における理学療法士としての専門的な関わりを学習する。また、介護保険制度や地域包括ケアシステムに関する知識も深め、今後の理学療法士の在り方を学ぶ。高齢者施設や地域へのボランティアに参加して地域貢献活動を学ぶ	授業計画		備考
	1	オリエンテーション	講義
	2	地域リハビリテーションの考え方	講義
	3	制度の変遷	講義
<授業目標 (GIO)> 地域リハビリテーションに関わる専門職としての知識の習得のみならず、地域で暮らす障害者や高齢者を支援する立場としての基本姿勢や援助技術を身につける。	4	介護保険サービス概論	講義
	5	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割	講義
	6	地域支援事業の中での理学療法士の役割	講義
	7	地域で支える関連職種	講義
<行動目標 (SBO)> ・地域リハビリテーションの必要性、関連職種の役割や連携について説明できる。 ・介護保険制度におけるサービスの実際を学び、各々のサービス内容を説明できる。 ・具体的な症例を通し、支援のあり方や理学療法士としての関わり方について理解を深めることができる。	8	高齢者施設実習＋ボランティア活動 日程は後日発表	演習
	9		演習
	10		演習
	11		演習
<授業の留意点> 積極的に授業に臨む 遅刻・欠席をしないこと	12	高齢者災害対策	演習
	13		演習
<教科書> 地域リハビリテーション学テキスト（南江堂） 必要時に資料配布	14	前期の振り返り	講義
	15		講義
<参考書> 介護保険の手引き 介護保険サービスとリハビリテーション など	成績評価		
	筆記試験:80%、小テスト:20%		

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験9年以上

科目名			区分	
地域理学療法学Ⅱ			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	30 (1)	講義 ・ 演習 ・ 実習	非常勤講師(※1)

<授業概要> 地域リハビリテーションの背景や現状を理解し、地域における理学療法士としての専門的な関わりを学習する。また、介護保険制度や地域包括ケアシステムに関する知識も深め、今後の理学療法士の在り方を学ぶ。高齢者施設や地域へのボランティアに参加して地域貢献活動を学ぶ	授業計画		備考
<授業目標(GIO)> 地域リハビリテーションに関わる専門職としての知識の習得のみならず、地域で暮らす障害者や高齢者を支援する立場としての基本姿勢や援助技術を身につける。	1	オリエンテーション	講義
	2	介護福祉・介護老人保健施設	講義
	3	訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション	講義
	4	デイサービス	講義
	5	地域で企業する理学療法士①	講義
	6	地域で企業する理学療法士②	演習
<行動目標(SBO)> ・地域リハビリテーションの必要性、関連職種の役割や連携について説明できる。 ・介護保険制度におけるサービスの実際を学び、各々のサービス内容を説明できる。 ・具体的な症例を通し、支援のあり方や理学療法士としての関わり方について理解を深めることができる。	7	グループワーク(高齢者向け体操の実施)	演習
	8		演習
	9		演習
	10		演習
<授業の留意点> 積極的に授業に臨む 遅刻・欠席をしないこと	11	高齢者施設実習＋ボランティア活動 日程は後日発表	演習
	12		演習
	13		演習
<教科書> 地域リハビリテーション学テキスト（南江堂） 必要時に資料配布	14	後期の振り返り	講義
<参考書> 介護保険の手引き 介護保険サービスとリハビリテーション など	15		講義
	成績評価		
	筆記試験:80%、小テスト:20%		

※1 理学療法士として病院及び介護老人保健施設で実務経験9年以上

科目名			区分	
短期実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
3年次	前期 ・ 後期 ・ 通年	135 (3)	講義 ・ 演習 実習	臨床実習指導者

<授業概要> 各種理学療法適応疾患における実際を理解し、認知領域・情意領域・精神運動領域それぞれの向上を図り、長期実習並びに卒業後の実務へと繋げる。
<授業目標(GIO)> 発症時期・施設形態に関わらず、各種疾患に対する理学療法の適応と実際を理解し、臨床・介護現場にて治療立案ができる。
<行動目標(SBO)> ①各種疾患の病態を理解し、理学療法に必要な評価を行うことができる。問題点を抽出しゴールを設定し、適切な治療法を選択し実施することができる。 ②認知領域(想起・解釈・問題解決)・情意領域(態度)・精神運動領域(技能)それぞれの向上を図り、実習指導者の指導のもと理学療法を実施することができる。
<授業の留意点> 積極的に学習ならびに実習に取り組むこと。担当症例や関わった対象者に感謝の気持ちを持って接すること。
<教科書> 特に定めない。必要な教科書をあらかじめ用意すること。
<参考書> ・実習の手引き ・実習地により適宜資料配布

実習計画
2020年1月6日～2020年1月25日の3週間実施

成績評価
・成績報告書:80%、提出物及び発表:20%

科目名			区分	
長期実習			基礎 ・ 専門基礎 ・ 専門	
開講年次	開講期	時間数 (単位数)	授業形態	担当者
4年次	前期 ・ 後期 通年	810 (18)	講義 ・ 演習 ・ 実習	臨床実習指導者 専任教員

<授業概要・目標> <概要> - 臨床実習指導者の指導のもと、評価から治療および記録・報告などの一貫した理学療法業務を経験し修得する - 包括的リハビリテーションにおける理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに、今後進むべき方向性や研究テーマを考える - 社会人・職業人としての態度を修得する	実習計画
<目的> - 臨床実習指導者の指導を受けながら、臨床現場のスケジュールに沿って行動し、直接的業務と間接的業務を学ぶ。 - 実際の臨床現場で患者の評価・治療計画の立案・具体的治療の実施を体験し、対象者の機能的状態を把握する。 - 対象者から得られた情報などは、必要に応じて記録・報告をする。 - 全体像の把握と周辺環境との整合性を鑑み、一連の理学療法的手段と結びつける。 - 専門領域、専門基礎領域において総合的な知識を身につける。	第Ⅰ期臨床実習 2019年5月7日～2019年7月13日の10週間実施 第Ⅱ期臨床実習 2019年7月29日～2019年9月21日の8週間実施 計18週間実施
	成績評価 臨床実習成績表:80%、報告書の提出および発表:20%